宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第112集

本　宮　遺　跡

Motomiya Site

市木川総合二級河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

宮崎県埋蔵文化財センター

序

宮崎県教育委員会では、市木川統合二級河川整備事業に伴い、本宮遺跡の発掘調査を行いました。

本宮遺跡の位置する串間市市木は市木古墳群が所在し、近辺には大小様々な遺跡が存在していることが知られています。本遺跡はそのうちの市木4号墳と市木川にはさまれた扇状地に立地しています。この市木川は、時に荒れ狂う川となり大きな水害を付近にもたらしてきました。本書はこの河川改修工事に先立っての調査報告です。

今回の調査では、弥生時代から近代にかけての遺構を検出するとともに、当時の人々が日常使用していた土器や石器などが大量に出土したことから、本遺跡周辺で長い間、先人の生活が営まれていたことが推測されます。その頃、当地域では自然環境や社会環境に適応しながら独自の文化を育んでいったものと推察されますが、一方で、土器につけられた文様などから広域にわたる人・もの・情報の交流の跡をうかがい知ることができ、大変興味深いものがあります。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となれば幸いです。

なお、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、並びに地元の方々に心からの謝意を表します。

平成17年3月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長　宮園淳一

例　言

1　本書は、市木川統合二級河川整備事業に伴い、宮崎県教育委員会が行った本宮遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、宮崎県土木部中間土木事務所の依頼を受けた宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。

3　発掘調査は、平成15年11月７日から平成16年１月21日まで行った。

4　現地での実測・写真撮影等の記録は、杉田康之・古屋美樹が行った。

5　整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行った。図面の作成・実測・トレース・写真撮影等は、杉田が整理作業員の協力を得て行った。

6　本書で使用した第１図「本宮遺跡と周辺の遺跡位置図」は、国土地理院発行の25,000分の１図「本城」、第２図「本宮遺跡周辺地形図」は、国土地理院発行の5,000分の１図「国土基本図」を基に作成した。

7　次の業務はそれぞれ業者に委託した。
○　空中写真撮影……九州航空株式会社
○　水準点測量・グリッド杭設置等……株式会社中島測量設計コンサルタント
○　自然科学分析……株式会社古環境研究所

8　土層断面及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に拠る。

9　本書で使用した方位は、座標北（座標第Ⅱ系）及び磁北である。座標北を用いた場合には、G.N.、磁北はM.N.と表示している。レベルは海抜絶対高である。

10　本書で使用した遺構略号は次のとおりである。
ＳＢ……掘立柱建物跡　　ＳＣ……土坑　　ＳＥ……溝状遺構
ＳＨ……ピット

11　本書の執筆及び編集は、杉田が担当した。

12　出土遺物・その他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本 文 目 次

第Ⅰ章　はじめに
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の組織 …… 1
第３節　遺跡の位置と環境 …… 2

第Ⅱ章　調査の概要
第１節　調査の経過 …… 5
第２節　層序 …… 7

第Ⅲ章　調査の記録
第１節　弥生時代の遺構と遺物 …… 9
1　土坑（ＳＣ）…… 9
2　弥生時代の遺物 …… 10
第２節　古墳時代から古代の遺物 …… 13
1　土師器 …… 13
2　須恵器 …… 22
3　陶磁器 …… 23
第３節　中世の遺構と遺物 …… 34
1　掘立柱建物跡（ＳＢ）…… 34
2　中世の遺物 …… 37
（1）土師器 …… 37
（2）陶磁器 …… 37
第４節　近世・近代の遺構と遺物 …… 38
1　杭列遺構 …… 38
2　近世の遺物 …… 40
第５節　時期不明の遺構と遺物 …… 41
1　溝状遺構（ＳＥ）…… 41
2　時期不明の遺物 …… 42
（1）土錘・土製紡錘車 …… 42
（2）石器 …… 42

第Ⅳ章　まとめ
第１節　遺構 …… 46
1　掘立柱建物跡 …… 46
2　杭列遺構 …… 46
第２節　遺物 …… 47
（1）土師器 …… 47
（2）須恵器 …… 47

挿図目次

第１図　本宮遺跡と周辺の遺跡位置図 …… 3
第２図　本宮遺跡周辺地形図 …… 4
第３図　グリッド配置図及び遺構検出状況図 …… 6
第４図　層序図 …… 7
第５図　南壁土層断面図 …… 7
第６図　西壁土層断面図 …… 8
第７図　ＳＣ１実測図 …… 9
第８図　ＳＣ１出土遺物実測図 …… 10
第９図　弥生時代の遺物実測図① …… 10
第10図　弥生時代の遺物実測図② …… 11
第11図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図① …… 15
第12図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図② …… 16
第13図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図③ …… 17
第14図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図④ …… 18
第15図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑤ …… 19
第16図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑥ …… 20
第17図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑦ …… 21
第18図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑧ …… 24
第19図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑨ …… 25
第20図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑩ …… 26
第21図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑪ …… 27
第22図　出土陶磁器（古代）実測図 …… 28
第23図　ＳＢ１実測図 …… 35
第24図　ＳＢ２実測図 …… 35
第25図　ＳＢ３実測図 …… 36
第26図　ＳＢ４実測図 …… 36
第27図　中世土師皿実測図 …… 37
第28図　中世陶磁器実測図 …… 37
第29図　１号杭列遺構実測図 …… 39
第30図　２号杭列遺構実測図 …… 39
第31図　３号杭列遺構実測図 …… 39
第32図　木杭実測図 …… 40
第33図　近世陶磁器実測図 …… 40
第34図　ＳＥ１・ＳＥ２実測図 …… 41
第35図　時期不明の遺物実測図① …… 42
第36図　時期不明の遺物実測図② …… 43
第37図　時期不明の遺物実測図③ …… 44

表目次

第１表　ＳＣ１出土土器観察表 …… 12
第２表　弥生土器観察表 …… 12
第３表　出土土師器（古墳時代～古代）観察表① …… 28
第４表　出土土師器（古墳時代～古代）観察表② …… 29
第５表　出土土師器（古墳時代～古代）観察表③ …… 30
第６表　出土土師器（古墳時代～古代）観察表④ …… 31
第７表　出土須恵器（古墳時代～古代）観察表① …… 31
第８表　出土須恵器（古墳時代～古代）観察表② …… 32
第９表　出土須恵器（古墳時代～古代）観察表③ …… 33
第10表　出土陶磁器（古代）観察表 …… 33
第11表　掘立柱建物跡一覧表 …… 34
第12表　出土土師器（中世）観察表 …… 37
第13表　出土陶磁器・瓦器（中世）観察表 …… 37
第14表　出土木杭（近世～近代）観察表 …… 40
第15表　出土陶磁器（近世）観察表 …… 40
第16表　出土土錘・紡錘車計測表 …… 45
第17表　出土石器計測表 …… 45
報告書抄録

巻頭図版目次

巻頭図版１　本宮遺跡近景（東から）
巻頭図版２　本宮遺跡遠景（西から）
　　本宮遺跡全景と市木５号墳

図版目次

図版１　調査前の本宮遺跡と市木５号墳、市木５号墳上の「宮跡」碑、造物包含層、造物出土状況 …… 49
図版２　ＳＣ１遺物出土状況、ＳＣ１完掘状況、ＳＢ１、ＳＢ２、ＳＢ３、作業風景 …… 50
図版３　１号杭列遺構検出状況、１号杭列遺構半截状況、２号杭列遺構半截状況、ＳＥ２と３号杭列遺構、３号杭列遺構半截状況、ＳＥ１と４号杭列遺構 …… 51
図版４　出土遺物① …… 52
図版５　出土遺物② …… 53
図版６　出土遺物③ …… 54
図版７　出土遺物④ …… 55
図版８　出土遺物⑤ …… 56
図版９　出土遺物⑥ …… 57
図版10　出土遺物⑦ …… 58
図版11　出土遺物⑧ …… 59

本宮遺跡近景（東から）

巻頭図版2

本宮遺跡遠景（西から）

本宮遺跡全景と市木５号墳

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

宮崎県串間土木事務所工務課では平成13年度から市木川統合二級河川整備事業を進めている。同事業の対象地内には周知の遺跡が存在していた。また、事業地の隣接地には県指定史跡の市木５号墳が所在することから、周溝が遺存していれば事業地内にかかる可能性が考えられた。

そこで、宮崎県教育庁文化課では平成15年５月に現地踏査を行い、工事実施予定地に土器片が散布している状況や県指定古墳の立地状況について確認した。その後、平成15年７月に串間土木事務所内において、県指定古墳の取扱いと試掘調査について協議を実施した。また、確認調査は、平成15年８月25日から８月29日までの間に３日間行った。その結果、周溝の存在は確認できなかったものの新たな遺物包含層と柱穴と考えられる痕跡を確認したことから、平成15年９月９日に串間土木事務所と遺跡の取扱いについて協議を実施した。協議の結果、やむを得ず遺跡が影響を受ける事業対象地内の1,535㎡について発掘調査を行い、記録保存の措置をとることとなった。

発掘調査は、平成15年11月７日から平成16年１月21日にかけて、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。また、平成16年度には遺物整理と報告書作成を埋蔵文化財センターで行った。

第２節　調査の組織

発掘調査（平成15年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	米良弘康
副所長兼総務課長	大薗和博
副所長兼調査第二課長	岩永哲夫
総務課主幹兼総務係長	石川恵史
調査第二課調査第三係長	菅付和樹
同　係　主　査	杉田康之
同　係　調　査　員	古屋美樹

整理及び報告書作成（平成16年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	宮園淳一
副所長兼総務課長	大薗和博
副所長兼調査第二課長	岩永哲夫
総務課主幹兼総務係長	石川恵史
調査第二課調査第三係長	菅付和樹
同　係　主　査	杉田康之

第３節　遺跡の位置と環境（第１図・第２図）

串間市は宮崎県の最南端部に位置している。北部には二つの山脈が走り、東は日向灘、南は志布志湾に臨んでいる。市内は南那珂山地と呼ばれる地質で海成層であるが、主に砂岩・頁岩及び互層から構成されている。この山地は北部にある鰐塚山から南部の都井岬に向かって漸次低下してきており、全体的に南に傾く様相を呈する。南那珂山地に源を発する大小の川は東流して太平洋にそそいでおり、その流域に平野が開ける。海岸部には良港も多く、中世以来外国貿易の拠点であった崎田港（現在本城漁港）などがある。本宮遺跡の所在する市木地区は串間市の東端に位置している。東は日向灘に面し、地先の海に幸島・鳥島及び築島が浮かぶ。本宮遺跡はこの市木平野中央を流れる市木川右岸に立地している。

本遺跡周辺の遺跡を時代を追って概観してみると、弥生時代では大字西方に８軒の竪穴住居跡とともに、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての土器が出土した唐人町遺跡がある。また、大字北方、標高約27mの小高い丘に所在している大田井遺跡は、壺、高坏、鉢が小範囲内から一括出土しており、出土状況や出土土器の組合わせなどから祭祀遺跡の可能性が指摘されている。他に周知の遺跡として、迎田遺跡、浜田遺跡などが散布地として知られる。また、江戸時代には大字西方周辺の「王之山」から穀蹠が出土しており、弥生時代に中国大陸と交渉をもつ程の勢力が存在した可能性がある。

古墳時代では、本地域で福島古墳群に次ぐ規模である市木古墳群がある。２基の円墳（１・２・３号墳は滅失古墳で、昭和59年に県史跡指定解除）と３基の箱式石棺が確認されているが、そのうち４号墳は本遺跡の北西約380m、市木小学校東側に遺存しており、市木５号墳は本遺跡の南に隣接している。また、市木藤浦古墳（市木箱式石棺群）は本遺跡の北東約１.４kmに位置し、１号箱式石棺内から頭椎太刀が出土している。さらに、桂松古墳、開田古墳、砂子田古墳、松原添遺跡、屋敷田遺跡、平田前遺跡、井手園遺跡などの所在が申間市遺跡詳細分布調査報告書などに記録してあるが詳細は不明である。

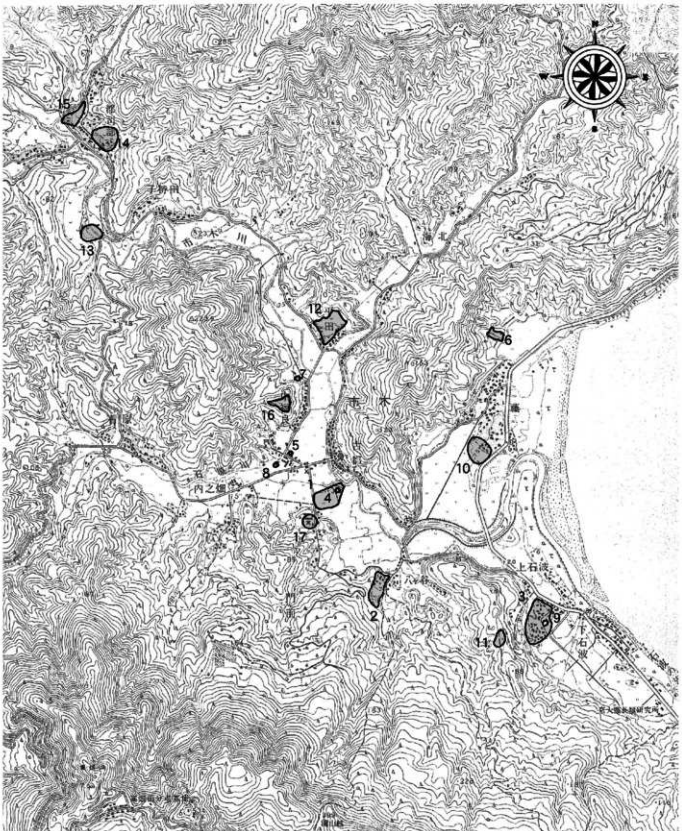
律令制の国郡制度のもとでは、当市域が宮崎郡であったことはほぼ間違いないが、何郷であったかは明らかでなく、当市域を中心に田辺郷がおかれたとする説と飫肥郷の一部とされたとする説がある。

中世では、大字西方に典型的な南九州タイプの中世城である櫛間城跡がある。1335年、野辺盛忠によって築かれた城は、江戸時代の初期まで櫛間地方の政治・軍事の中心であった。また、本遺跡の北西約700ｍの丘陵端部には中福良城跡がある。これは築城の経緯等一切不明であるが、室町時代に島津元久が「櫛間、市木城を攻めた」という記録があることから当城が「市木城」である可能性がある。他に周知の遺跡として前原第２遺跡、郡司部遺跡などが散布地として知られる。

近世の遺跡では、当遺跡の南西約300ｍに臨済宗龍源寺跡がある。対明貿易のため島津氏は儒僧を選んで通詞とし朱子学薩南学派の祖といわれる桂庵玄樹らがこれを勤めたが、明治３年に廃寺となり、現在は跡地に市木中学校が建つ。

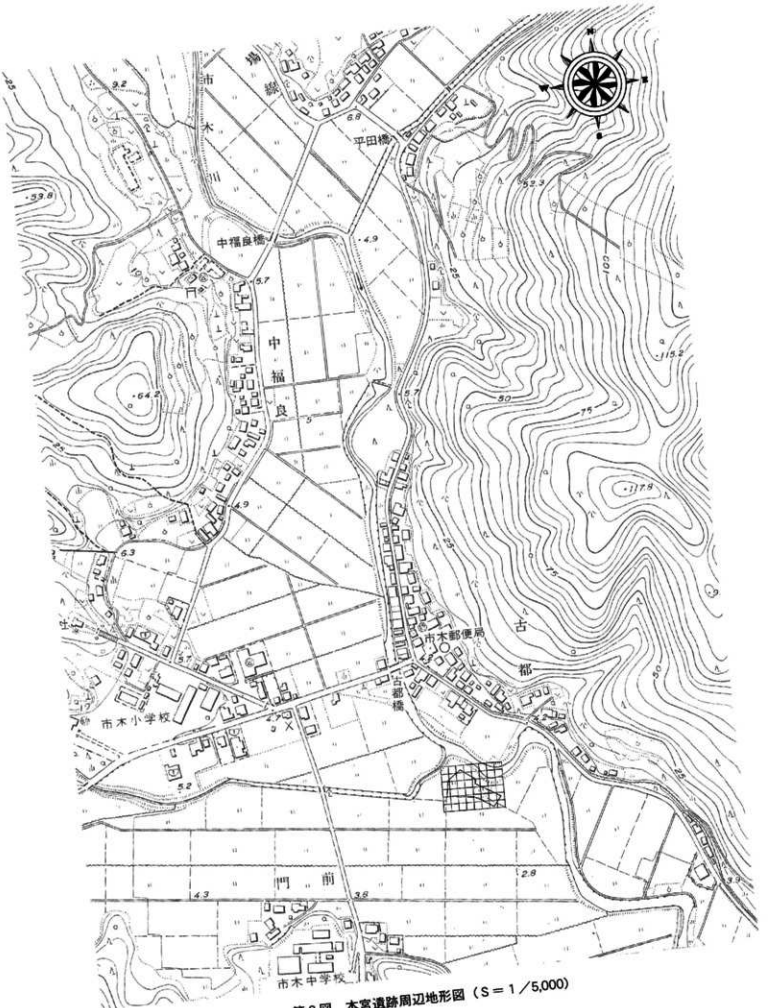
また、この他にも詳しい調査は行われてはいないが市木地区周辺では弥生時代から近世にかけての遺物が出土する散布地が数多く所在する。

【参考文献】
宮崎県教育委員会　1960　『串間市市木箱式石棺調査報告』宮崎県文化財調査報告書第５輯
串間市役所　1974　『串間市郷土史』
角川書店　1986　『角川日本地名大辞典』
串間市教育委員会　1990　『串間市遺跡詳細分布調査報告書（Ⅰ）』
宮崎県史刊行会　1993　『宮崎県史』資料編　考古２
宮田浩二・東憲章　1994　『宮崎県南部における中世城郭の一例』宮崎考古　第13号
串間市　1996　『串間市史』
宮崎県教育委員会　1999　『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ』詳説編



①本宮遺跡	②迎田遺跡	③浜田遺跡	④市木５号墳	⑤市木４号墳	⑥桂松古墳
⑦市木藤浦古墳（市木箱式石棺群）	⑧開田古墳	⑨砂子田古墳	⑩松原添遺跡	⑪屋敷田遺跡	
⑫平田前遺跡	⑬井手園遺跡	⑭前原第２遺跡	⑮郡司部遺跡	⑯中福良城跡	⑰龍源寺跡

第１図　本宮遺跡と周辺の遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）



第2図　本宮遺跡周辺地形図（S＝1／5,000）

第Ⅱ章　調査の概要

第１節　調査の経過

本宮遺跡は市木川下流域右岸、標高３～４ｍの市木平野低地に位置する。南側には市木５号墳（県指定史跡：昭和９年）が隣接しているが、現況において円墳の形状は変形しており原形は明らかではない。

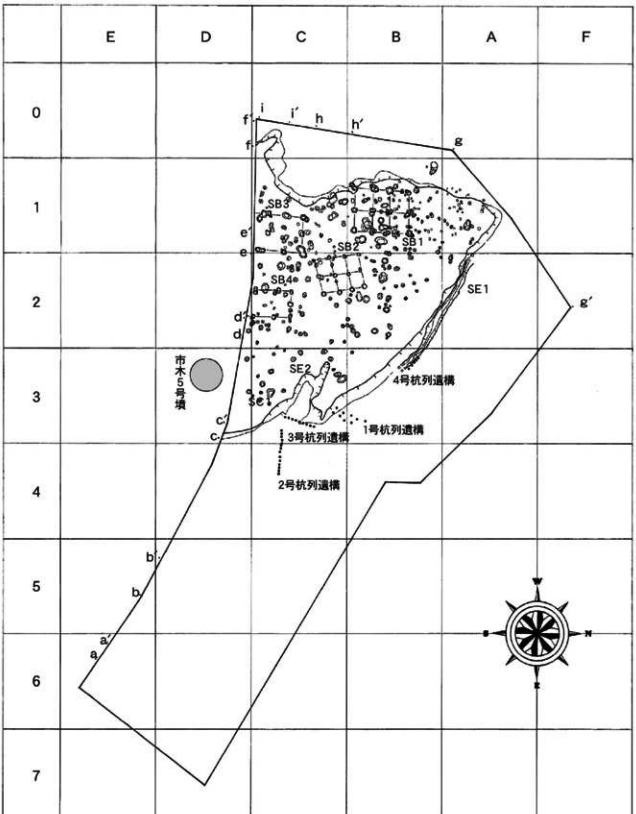
調査は、河川改修予定地で遺構・遺物の消失が懸念される地域を対象にして行った。調査対象面積は1,535㎡である。発掘調査は、まず重機で表土を剥ぎ、その後人力による掘り下げを行った。調査区は発掘調査前は水田であったが、全域にわたるような攪乱はみられなかった。表土の除去後トレンチを数か所設定して土層の確認を行った。その結果、遺物包含層は調査区西部南側付近に集中していること、中央部から北に向かって、土層は深く傾斜していくことを確認した。

調査区は付近一帯よりレベル的に低い地勢で水が溜まりやすく、粘土層上位に伏流する水が発掘によりしみ出すことから、まず調査区の周囲に排水溝を掘るとともに、集まった泥水を溜升で澄ませた後、市木川に逃がす排水施設を整えた。次に調査区西部南側に厚く堆積している遺物包含層（黒褐色土）には大量の遺物が含まれていたことから、小グリッド（2.5m×2.5m）ごとに遺物の取り上げを行った。

遺物包含層の精査後、黄褐色土層が現れたが、その面を精査した結果、300基程のピットが検出され、４棟の掘立柱建物跡（総柱建物２棟を含む）が確認された。また、調査区中央部南端では１号土坑を検出し、床面で底部が入れ子状になった土師質土器が出土した。遺物包含層が深く傾斜する際には溝状遺構が２条検出された。また、調査区内には木杭が点在し、杭列として並ぶものが調査区中央部付近に５列検出された。このうち、１号杭列遺構は２列構造である。これらの遺構は、１～２号溝状遺構及び旧河川跡ないしはより大きな溝状遺構に付設された遺構と考えられる。このうち、１～３号杭列遺構に使用された杭は同じ種類の樹木を用い、先端等の加工の状況も同じである。しかし、それぞれの杭列遺構付近から出土した遺物は流れ込みの様相を呈しており、遺構の構築時期を特定することが困難であった。そこで、加工方法や樹種の異なる２種類の杭列遺構から採取した生木資料をもとに、放射性炭素^{14}C年代測定（ＡＭＳ法）と樹種同定を行った。その結果、１～３号杭列遺構は杉材を用いた近世から近代の遺構であること、４号杭列遺構は椿（しきみ）を材とした近世の遺構であることが判明した。また、隣接する市木５号墳に伴う周溝等は今回の調査では検出できなかった。

その後、調査は土層堆積状況観察のトレンチで遺構面の下層まで遺構・遺物の有無についての確認調査を行ったが無遺物層であることが判明したため、それ以上の深掘りは避け、平成16年１月21日に調査を終了した。遺物は土器を中心として須恵器、石器が大量に出土し、コンテナ196箱に達した。このうち土器は弥生時代から古代にかけてのものが最も多く出土した。須恵器は、古墳時代の終末から古代にかけてのものが多く出土した。陶磁器類は、中世から近世にかけてのものがコンテナ１箱程出土した。

現地では記録作成のため、国土座標（ＸＹ座標）に乗じた10m単位のグリッドを設定（第３図）し、南北方向に北からＦ，Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅ、東西方向に西から０～７の記号を付けた。



第３図　グリッド配置図及び遺構検出状況図（Ｓ＝１／400）

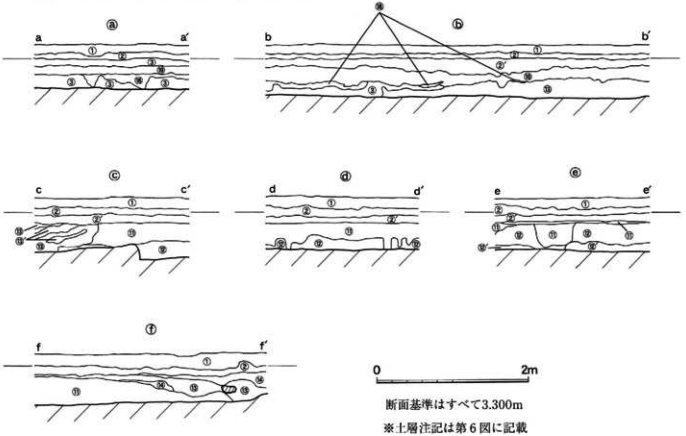
第2節　層序

本宮遺跡の基本層序を第4図に示した。調査前地形は水田であったためほぼ水平であるが、市木川によって形成された扇状地であり、西から東へ緩やかに傾斜した地形である。旧地形は調査区中央部付近から北に向けて深く傾斜していく。指標テフラの堆積は確認できなかった。また、遺跡が市木川のほとりに位置しているため、河川の氾濫による浸食をたびたび受けた様子が確認できた。

第Ⅰ層の表土は現水田耕作土で、堆積層の厚さは約15～40㎝である。第Ⅱ層の灰黄褐色土は、10㎝前後の堆積を認めることができたが、調査区東部において第Ⅱ層と第Ⅲ層は互層をなしており、幾度も水田が造り替えられていることを確認できた。遺物包含層は第Ⅶ層で調査区西部南側に厚く堆積しており、最大厚は48㎝程度である。弥生時代から古代にかけての遺物を中心に大量に出土した。遺構検出面は第Ⅷ層で調査区西部で確認されたが、北に向かうにつれ深く傾斜していき、オリーブ灰色を呈するようになる。おそらく空気との接触を遮断されていた結果だと推察され旧河川底であったものと考えられる。

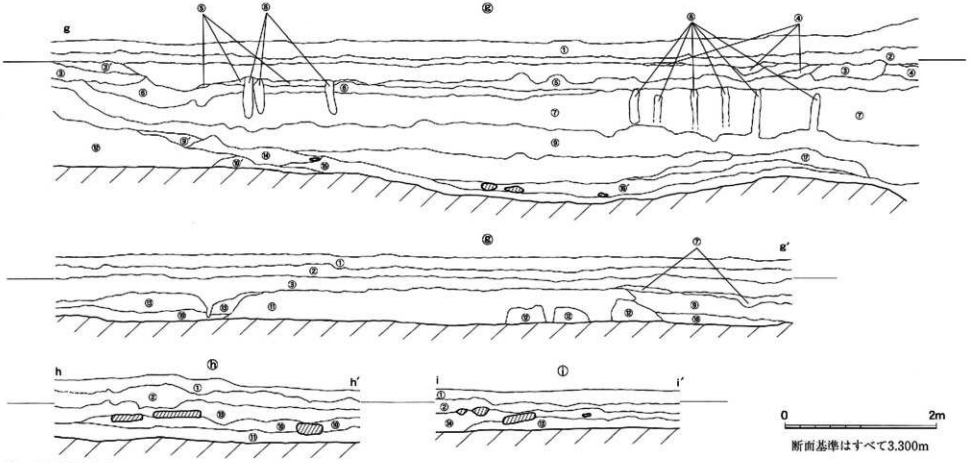
第Ⅰ層	表土
第Ⅱ層	灰黄褐色土
第Ⅲ層	暗灰黄色土
第Ⅳ層	黄灰色土
第Ⅴ層	灰色土
第Ⅵ層	暗灰黄色土
第Ⅶ層	黒褐色土
第Ⅷ層	黄褐色土
第Ⅸ層	灰黄色土

第4図　層序図



断面基準はすべて3.300m
※土層注記は第6図に記載

第5図　南壁土層断面図（S＝1／50）



【南・西壁土層注記】

①**暗灰黄色土**(Hue2.5Y5/2)表土。粘土層でかたくしまりがある。＜Ⅰ層＞②**灰黄褐色土**(Hue10YR4/2)①と似ているが色調がやや暗い。粘土層でしまりがあり乾燥するとぼろぼろになる。水田の床土と思われる明赤褐色の鉄分を多く含む。＜Ⅱ層＞②'**灰黄色土**(Hue2.5Y6/2)φ1mm程度の軽石を全体に多く含む層。水田の床土か。③**灰黄褐色土**(Hue10YR4/2)粘土と砂の混合土。φ3～10cm程度の角礫を多く含む層。土器などの遺物も混じる。③'**灰黄褐色土**(Hue10YR4/2)③と同じだが礫を含まない。④**黄褐色土**(Hue2.5Y5/6)暗灰黄色の粘土ブロックを含む砂の層。かたくしまりがある。⑤**暗灰黄色土**(Hue2.5Y5/2)粘土層でかたくしまりがある。暗褐色の粒を多く含む。＜Ⅲ層＞⑥**暗灰黄色土**(Hue2.5Y5/2)⑤と同じだが黄褐色の粒を多く含む。⑦**黄灰色土**(Hue2.5Y5/1)粘土層。かたくしまりがある。暗褐色のにじみがみられ黒褐色の粒を多く含む。＜Ⅳ層＞⑧**灰オリーブ色土**(Hue5Y5/2)中央部に木枕片が残っているものもある。粘りの強い粘土。⑨**灰色土**(Hue5Y4/1)暗褐色と黄褐色のにじみが多くみられる粘土層。φ1～2mmの白色蛭石を微量に含む。細く破砕した土器片も混入している。＜Ⅴ層＞⑩'**灰色土**(Hue5Y5/1)⑨と同じだが色調がやや明るい。炭化物を微量含む粘土層。⑩**暗灰黄色土**(Hue2.5Y4/2)黒褐色と褐色のにじみが非常に多く混じる粘土層。＜Ⅵ層＞⑪**黒褐色土**(Hue2.5Y3/2)遺物の包含層。土師器、須恵器を大量に含む。粘土質で乾燥すると非常にかたい。炭化物や黄褐色ブロックを含む。＜Ⅶ層＞⑪'**黒褐色土**(Hue2.5Y3/2)⑪と⑫の混合土⑫**黄褐色土**(Hue2.5Y5/4)遺構検出面。灰色の粘土や暗褐色の粒が全体に混じる。凹凸がある。＜Ⅷ層＞⑫'**黄褐色土**(Hue2.5Y5/4)⑫と⑬の混合土。粘性の強い粘土層。⑬**黄灰色土**(Hue2.5Y4/1)遺物包含層の二次堆積と思われる層。暗褐色のにじみが全体に広がる。遺物量は⑪に比べ少量である。⑭**灰色土層**(Hue5Y5/1)オリーブ灰色、黄褐色ブロックを含む粘土層。遺物も少量含む。⑮**オリーブ灰色土層**(Hue10Y4/2)⑫と同じ層。まだ酸化されておらずオリーブ灰色を呈する。⑯**オリーブ黒色土**(Hue7.5Y3/1)暗褐色のにじみを少量含む粘土層。炭化物も少量含む。⑯'**オリーブ黒色土層**(Hue7.5Y2/2)⑯と同じだが、色調がやや暗い。φ20cm程度の角礫を含む。⑰**オリーブ黒色土**(Hue5Y3/1)⑯と似ているが、オリーブ灰色の粘土ブロックと砂が混じる粘土層。⑱**灰黄色土**(Hue2.5Y7/2)青灰色の粘土と灰黄色の砂が互層となる層。⑱**灰黄色土**(Hue2.5Y7/2)砂層＜区層＞

第6図　西壁土層断面図（S＝1／50）

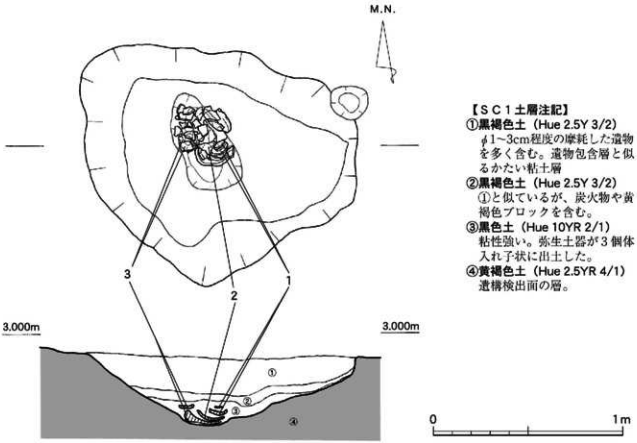
第Ⅲ章　調査の記録

第１節　弥生時代の遺構と遺物

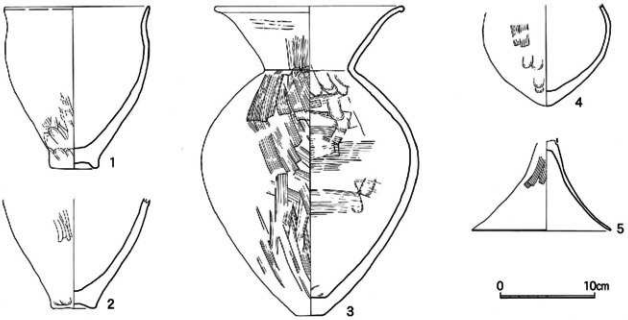
１　土坑（ＳＣ）

ＳＣ１（第７図）

Ｃ３グリッドで検出された。土坑周辺に弥生時代に構築された遺構はない。規模は長径158㎝、短径124㎝、検出面からの深さ35㎝を測る。平面プランは検出面で不整楕円をとりながら下部に向かって径を細めていき、検出面から約29㎝の深さでもう一段緩やかな乳頭状に窪まる。この掘込みの規模は長径54㎝、短径28㎝、深さ６㎝であり、この掘込みの中から弥生土器の甕（１、２）と壺（３）の底部が３個体、入れ子状に出土した。堆土は３層でレンズ状堆積をなす。**遺物（第８図）**１、２は甕である。１は緩やかに「く」字状に曲がる口縁部をもち、底部端部は張り出した上げ底である。２は口縁部が失われているが１と似た胴部形態を呈すると思われる。底部端部は張り出さず外面はミガキ調整である。３、４は壺である。３は頸部で明確に「く」字状に屈曲し、底部は径の小さい平底である。堅緻な焼きでたたくと金属音がする。４は球形胴をもち尖底で外面調整に一部ハケ目が残る。５は高坏である。裾部はやや外反しながら開く。風化が著しいが、外面に一部ハケ目が残る。



第７図　ＳＣ１実測図（Ｓ＝１／20）

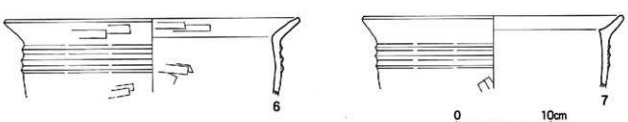


第８図　ＳＣ１出土遺物実測図（Ｓ＝１／４）

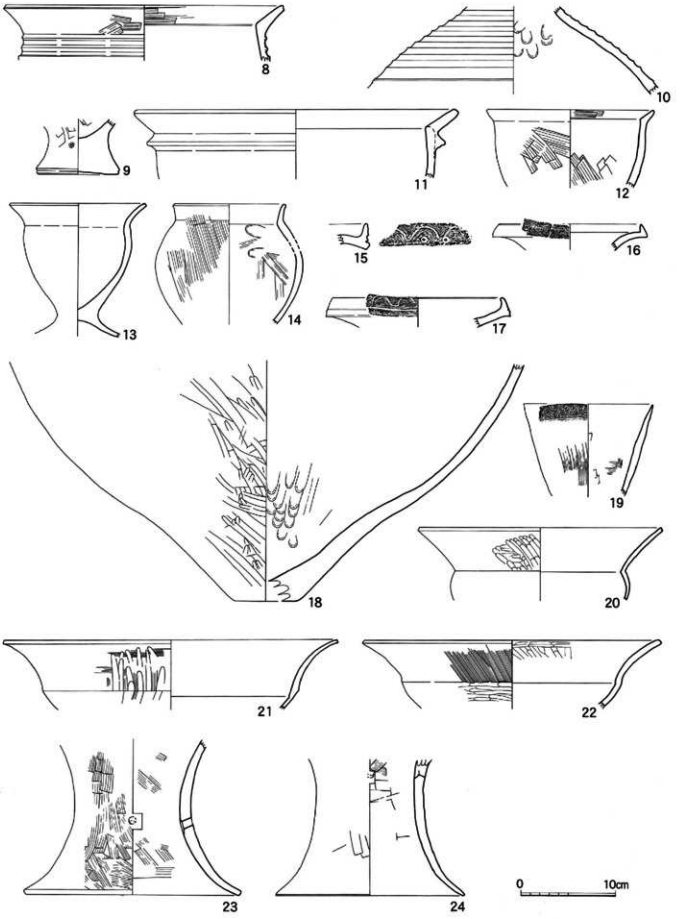
2　弥生時代の遺物（第９図～第10図）

ＳＣ１から出土した遺物以外に、包含層等から出土した土器の中でその特徴から、弥生時代の所産と判断したものについてここで取り扱う。しかし、土器編年上どこまでが弥生時代か認定するのは困難であるため、一部古墳時代初頭の資料が混在している可能性がある。また、遺物の出土量は類型化する程多くないので個体ごとにその概要を述べる。なお、土器の詳細については観察表を参照されたい。

土器は完形まで復元できたものはなく、口縁部や底部のみの遺物がほとんどであった。６～９、11～14は甕である。６～10は中期中葉に位置するいわゆる山ノ口系の土器である。６～８はいずれも口頸部が「く」字状に外反し、頸部下に２条～３条の断面三角貼付突帯をもつ。９は平底の甕底部であろう。11は口縁部が「く」字状に外反し、頸部くびれ部内面に明瞭な稜と頸部外面に貼付突帯をもつ。12は最大径を口縁部にもち、頸部くびれ部から内湾気味の口縁部が外側に開く。13は胴部上位でＳ字状に屈曲し脚台をもつ。14は頸部くびれ部からやや外反気味の口縁部が立ち上がり球形胴部をもつ。10、15～18は壺である。10は壺胴部上半で頸部付近から12条以上の突帯をもつ。15～17は二重口縁壺の口縁部である。15、16は櫛描波状文が施されるが15は竹管状工具による押圧文が観察できる。17は沈線によるくずれた波状文である。18は平底で胴部に向けて大きく開きながら立ち上がる。工具ナデの後ミガキ調整である。19、20は鉢である。19は口縁部に櫛描波状文が施され、20は頸部で屈曲し大きく外反する。21、22は高坏の坏部である。坏底部と口縁部との間で一度明確に屈曲し、口縁部は外反しながら立ち上がる。23、24は器台である。裾部の方が受部より広い寸胴で透かしをもつ。いずれも四方透かしか。



第９図　弥生時代の遺物実測図①（Ｓ＝１／４）



第10図　弥生時代の遺物実測図②（S＝1／4）

第１表　ＳＣ１出土土器観察表

遺物番号	種別	器種 部位	出土場所	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様など 外面	内面	色調 外面	内面	焼成	胎土の特徴	備考
1	弥生土器	壺 口縁部～底部	SC1	(15.6)	4.7	17.1	風化気味だが一部ナデ 指頭痕	風化著しいが一部ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	良好	2㎜以下の砂粒粒 3㎜以下の透明光沢粒	外面に黒変
2	弥生土器	壺 胴部～底部	SC1	－	4.6	－	ミガキ　ナデの後指頭痕	風化著しい一部ナデ	橙 (7.5YR7/6)	黄橙 (7.5YR7/8)	良好	4㎜以下の茶褐色粒 3㎜以下の白色光沢粒	外面に黒変
3	弥生土器	壺 口縁部～底部	SC1	(16.7)	3.1	32.8	ナデ　横方向の工具ナデ 縦・斜方向のハケ目	横方向のナデ　指頭痕 縦・斜方向のハケ目	橙 (7.5YR6/8)	褐灰 (10YR5/1)	良好	1.1㎜～6.5㎜大の灰褐色粒	
4	弥生土器	壺 胴部～底部	SC1	－	－	－	風化気味だが一部ハケ目	風化気味だがナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	良好	4.5㎜以下の灰黄褐・黒灰色粒	外面に黒変
5	弥生土器	高坏 脚部	SC1	－	(15.2)	－	風化著しいが一部ハケ目	風化著しいが一部ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	明褐灰 (7.5YR7/2)	良好	3㎜以下の茶褐色粒 3㎜以下の灰色光沢粒	

第２表　弥生土器観察表

遺物番号	種別	器種 部位	出土場所	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様など 外面	内面	色調 外面	内面	焼成	胎土の特徴	備考
6	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B1①	(31.2)	－	－	ヨコナデ　工具ナデ　三角貼付突帯(3条)	横方向の工具ナデ	褐 (7.5YR4/4)	明赤褐 (5YR5/6)	良好	1㎜以下の赤褐色粒 1㎜以下の黒褐色粒	山ノ口式
7	弥生土器	壺 口縁部～胴部	SH256	(27.4)	－	－	ヨコナデ　三角形付突帯(3条) 風化気味だがナデ痕ナデ	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	黒褐 (7.5YR3/2)	良好	3㎜以下の白色・赤褐色粒 2㎜以下の黒色光沢粒	山ノ口式
8	弥生土器	壺 口縁部～頸部	SH256	(29.1)	－	－	ヨコナデ　横方向のナデ 横方向のナデ　三角形貼付突帯	縦方向のナデ　横方向のハケ目	褐灰 (7.5YR4/1)	にぶい橙 (5YR7/3)	良好	1㎜以下の透明光沢粒	山ノ口式
9	弥生土器	壺 底部	SH256	－	8.5	－	工具痕　ナデ　指頭痕 底面　ヨコナデ	工具痕　ナデ	橙 (5YR6/6)	灰褐 (7.5YR6/2)	良好	1㎜以下の乳白色粒 1㎜以下の透明光沢粒	山ノ口式
10	弥生土器	壺 頸部付近～肩部	SH258	－	－	－	突帯(12条以上)　ヨコナデ	指頭痕　ナデ	褐灰 (7.5YR4/1)	灰褐 (7.5YR4/2)	良好	2㎜以下の褐灰色粒 1㎜以下の金色光沢粒	山ノ口式
11	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B1①	(33.4)	－	－	ヨコナデ　横方向のナデ 丁寧なナデ　三角貼付突帯	横方向のナデ　丁寧なナデ	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	良好	1㎜以下の金色光沢粒	
12	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B1①	(17.2)	－	－	ヨコナデ　横方向のハケ目 斜方向のハケ目	ハケ目　横方向のナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	良好	1㎜以下の透明光沢粒 3㎜以下の黒色光沢粒	外面に黒変
13	弥生土器	甕(美形) 口縁部～底部	SH248-1～8	(14.1)	－	－	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	良好	2㎜以下の灰褐色粒	
14	弥生土器	甕(美形) 口縁部～胴部	I	(11.6)	－	－	横方向のナデ　やや斜方向のハケ目	縦方向のナデ　指頭痕 斜・横方向のハケ目	灰白 (7.5YR8/1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	良好	3㎜以下の浅橙・褐色粒	
15	弥生土器	壺 二重口縁部	表土	－	－	－	鋸歯波状文　竹管文 ヨコナデ　ナデ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	良好	5㎜以下の赤・赤褐・灰色粒	
16	弥生土器	壺 二重口縁部	SH350	(8.0)	－	－	鋸歯波状文　丁寧なナデ ナデ	丁寧なナデ	橙 (2.5YR7/8)	橙 (2.5YR7/6)	良好	5㎜以下の灰色粒 3㎜以下の橙色粒	
17	弥生土器	壺 二重口縁部	SH348	(9.0)	－	－	鋸歯波状文　沈線　ヨコナデ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	橙 (5YR7/6)	良好	1㎜～3㎜の橙・灰色粒 1㎜以下の透明光沢粒	
18	弥生土器	壺 胴部～底部	B3①	－	(5.6)	－	工具ナデの後ミガキ	ナデ　指頭痕	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	良好	3㎜以下の褐・褐灰色粒	外面に黒変
19	弥生土器	鉢 口縁部～胴部	SH323	(13.5)	－	－	鋸歯波状文　横方向のナデ ハケ目	風化気味だがハケ目	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	良好	3㎜以下の褐・褐色粒	
20	弥生土器	鉢 口縁部～頸部	SH248-1～7	(25.3)	－	－	風化気味だがミガキ	ナデ	橙 (2.5YR6/8)	淡赤橙 (2.5YR7/4)	良好	2㎜以下の耀赤褐・透明・乳白色粒 1㎜以下の黒色光沢粒	
21	弥生土器	高坏 口縁部～体部	C3②	(35.1)	－	－	口縁部直線状　縦方向のハケ目の後横方向の縦なミガキ	丁寧なナデ	浅黄橙 (7.5YR8/3)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	良好	4㎜以下の茶褐色粒	
22	弥生土器	高坏 坏部	H2②	(30.8)	－	－	ヨコナデ　口縁部直線状　斜方向のハケ目　横方向のミガキ	横・斜方向のミガキ	橙 (5YR7/6)	橙 (2.5YR7/6)	良好	3㎜以下の赤褐・褐・黒色粒	
23	弥生土器	器台 柱部～脚部	C2	－	(22.8)	－	縦方向のハケ目　ヨコナデ	斜方向のハケ目　ナデ 横方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい橙 (5YR7/4)	良好	3㎜以下の茶褐色粒 2㎜以下の灰白・褐色粒	四方透かしか
24	弥生土器	器台 柱部～脚部	C2③	－	(20.0)	－	ナデ　工具痕　ヨコナデ	斜方向のハケ目　工具痕 ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	淡赤橙 (10YR8/1)	良好	1㎜以下の褐・赤茶色粒	四方透かしか

第２節　古墳時代から古代の遺物

本遺跡では、古墳時代から古代にかけての遺構は検出できなかったが、第Ⅶ層黒褐色土層からこの時期の特徴をもつ大量の遺物が出土した。遺物の内容は土師器、須恵器、陶磁器等である。この第Ⅶ層は、古墳時代と古代を分ける明確な層序を確認できず、古墳時代終末から古代初頭にかけての遺物も数多く確認されたことから一括してこの節で取り扱う。須恵器の型式を比定するにあたっては、陶邑窯跡群の田辺昭三氏と牟上がり窯跡資料を用いた増田一裕氏の編年案を用いた。遺物の詳細については別表（第３表～第10表）にまとめた。

１　土師器

甕（第11図～第14図）

甕は完形まで復元できたものはなく、口縁部から胴部上半までのものや底部付近のものがほとんどであった。形態及び調整技法によって大きく以下のように分類される。

甕Ⅰ類　口縁部がゆるやかなＳ字状を呈し、胴部がふくらみをもつもの

A　貼付突帯をもたないもの（25～27）

B　貼付突帯をもつもの（28～31）

甕Ⅱ類　胴部から口縁部にかけて内湾し、最大径を口縁部もしくは胴上部にもち貼付突帯をもつもの（32～43）

甕Ⅲ類　胴部から口縁部にかけて内湾し、最大径が胴部にあるもの

A　貼付突帯をもつもの（44～55）

B　貼付突帯をもたないもの（56）

蓋部（第13図）

57、58は傘形を呈する甕用の蓋と思われる。天井部内面の調整が比較的粗雑なことや四方透かしが施されていることから蓋として取り扱う。天井部外面端部は指押さえによりわずかに張り出す。

底部（第13図～第14図）

A　上げ底で木の葉痕がナデ消されているもの（59～64）

B　上げ底気味で木の葉底のもの（65～68）

C　平底で木の葉痕がナデ消されているもの（69～75）

D　平底で木の葉底のもの（76～79）

67は工具を用いて植物の葉脈に似せた調整を施した可能性があるが、ここでは木の葉底として取り扱う。80は平底で木の葉底がナデ消されている。底部の器形から壺の底である可能性がある。

甑（第14図）

81～86はいずれも単孔の甑である。81は最大径を口縁部にもち、口縁部下位に突帯が回る。82、83は単孔を形成する底部が厚くなる。84、85は底部から直線的に胴部が外傾し、底部の単孔周りを平たく調整している。86は焼成前に底部に穿孔が施されていることからここでは甑として取り扱う。

壺（第14図）

87は大型の二重口縁壺である。口縁部付近はさらに発達して外湾する。88、89は口縁部と頸部の境に屈曲点をもつ。88は口縁部はわずかに外反しながら直立気味に立ち上がり、89は直立気味に立ち上がる。89～91は頸部に連続刺突文が施される。92、93は頸部に貼付突帯がめぐる。92は薄い突帯上に二重の刺突文、93は二重の竹管文が施される。94、95はゆるやかなS字状に曲がる口縁部形態をもつ短頸壺である。96は扁球胴からやや外反しながら立ち上がる頸部をもつ長頸壺で、弥生土器である可能性がある。97は木の葉痕の残る平底をもつ比較的大型の長胴壺である。98は平底で底部の内部中央がわずかに厚くなる。内外面ともナデ調整である。

鉢（第15図）

99は小型の平底をもつ深めの鉢である。内外面とも工具ナデの後ミガキが施される。100～102は浅めの鉢である。100は口縁部にゆるやかな稜をもち内面に指頭痕が残る。101はゆるやかなS字状を呈する頸部をもち、外面口縁部に縦方向の沈線が2条確認できる。102は体部上位に貼付突帯が施される。103は平底の鉢で頸部に三角形状の貼付突帯が施される。104～107はコップ状の鉢で104は上げ底気味、105は上げ底、106、107は平底である。108、109は口縁が内湾し108は外面にミガキ、109は内面に工具ナデ調整がみられる。古墳時代終末から古代初頭のものか。110は脚台付鉢か。

椀（第15図）

椀Ⅰ類　口縁部に稜をもち外湾する立ち上がりをもつもの（111、112）

椀Ⅱ類　口縁部に稜をもたず体部から口縁部にかけて内湾するもの

　A　底部と体部の境がわりあい明瞭なもの（113～116）

　B　底部と体部の境が不明瞭なもの（117～122）

椀Ⅲ類　最大径を体部にもち、口径に比べて器高が高いもの（123、124）

高坏（第16図）

坏部と脚部の形態から以下のように分類する。四方透かしをもつものは133～138と145、146である。

坏部Ⅰ類　口縁部と受け部の境に稜をもち、外反しながら立ち上がるもの（125）

坏部Ⅱ類　口縁部と受け部の境が不明瞭で、受け部が内湾するもの（126、127）

坏部Ⅲ類　受け部はやや内湾するが、口縁部は直線的に立ち上がり浅い椀状を呈するもの（128）

脚部Ⅰ類　比較的器高が高く、やや外反しながら裾部が開くもの（126、129～138）

脚部Ⅱ類　器高が高く裾が内湾するもの（139、140）

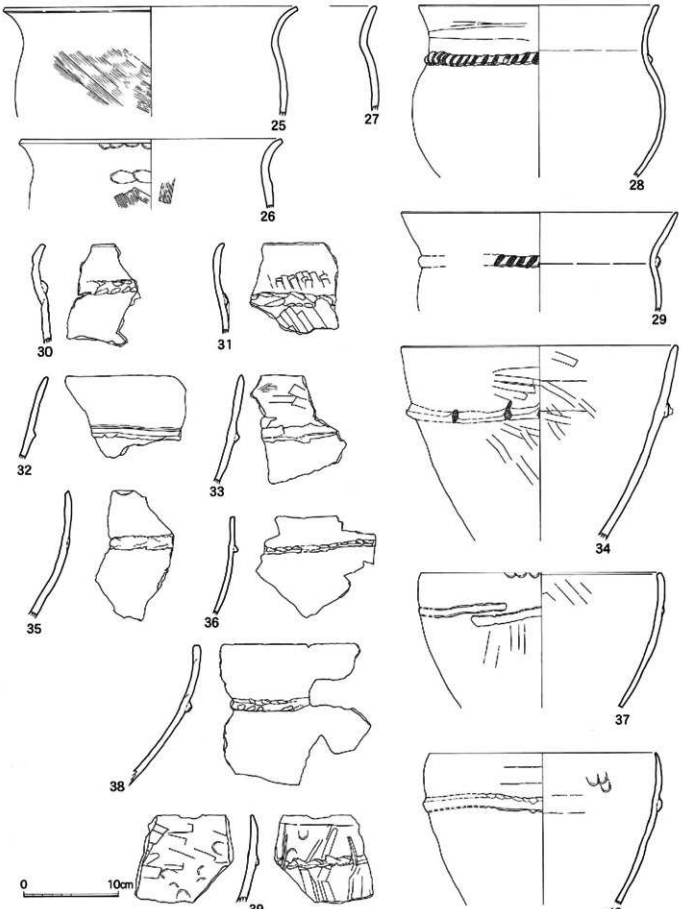
脚部Ⅲ類　器高が低く脚部が大きく開くもの（125、127、141～143）

脚部Ⅳ類　脚柱部がエンタシス状になるもの（144、145）

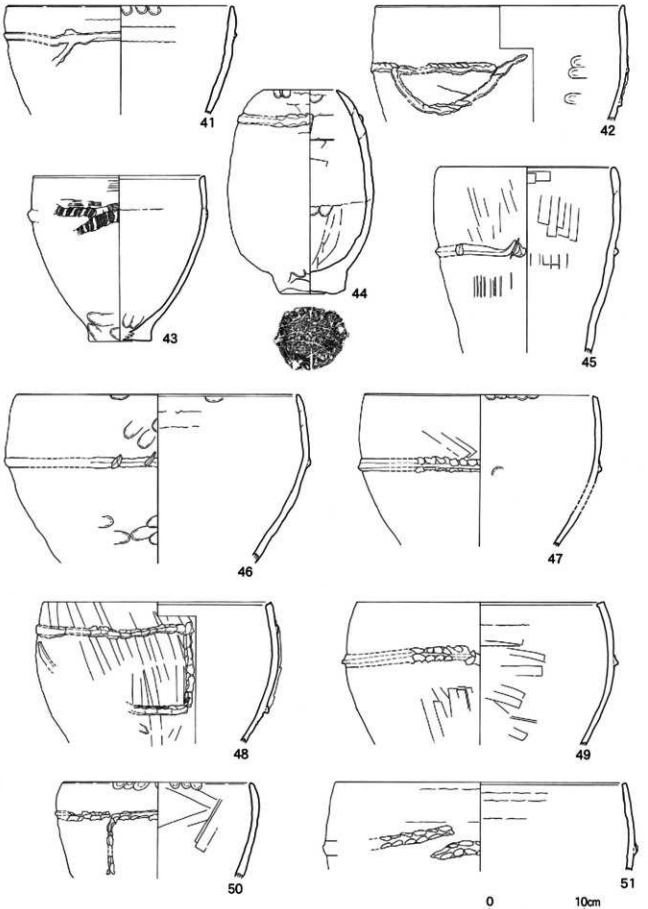
脚部Ⅴ類　脚部が直線的に延び裾部が開くもの（146、147）

ミニチュア土器（第16図）

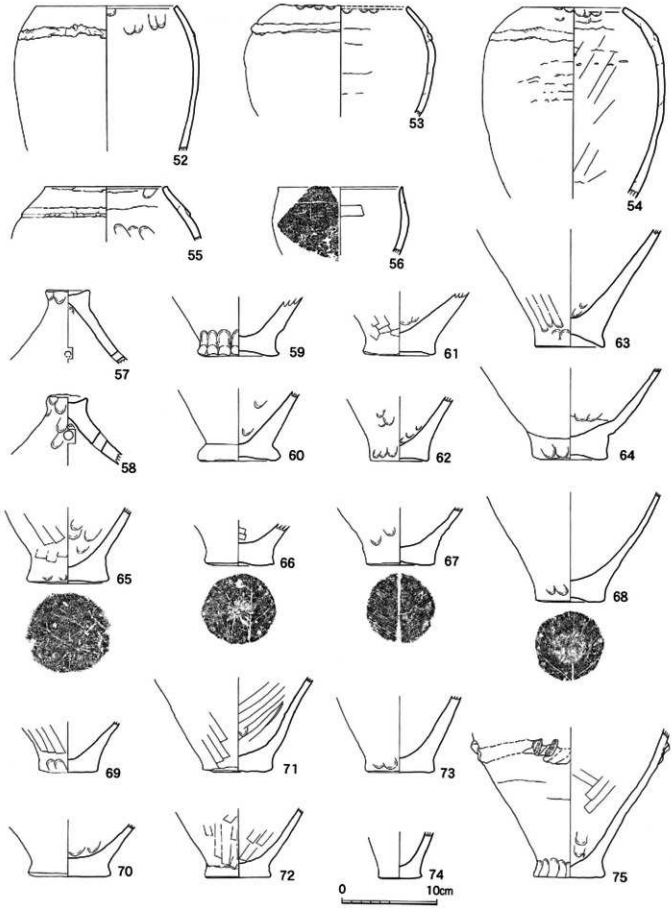
手捏ねのミニチュア土器で、いずれも指頭痕が残る。それぞれの形態により次のように分類した。平底の鉢形(148～151)、壺形(152)、椀形(153)、甕形(154)、尖底もしくは小さな底部の鉢形(155～165)



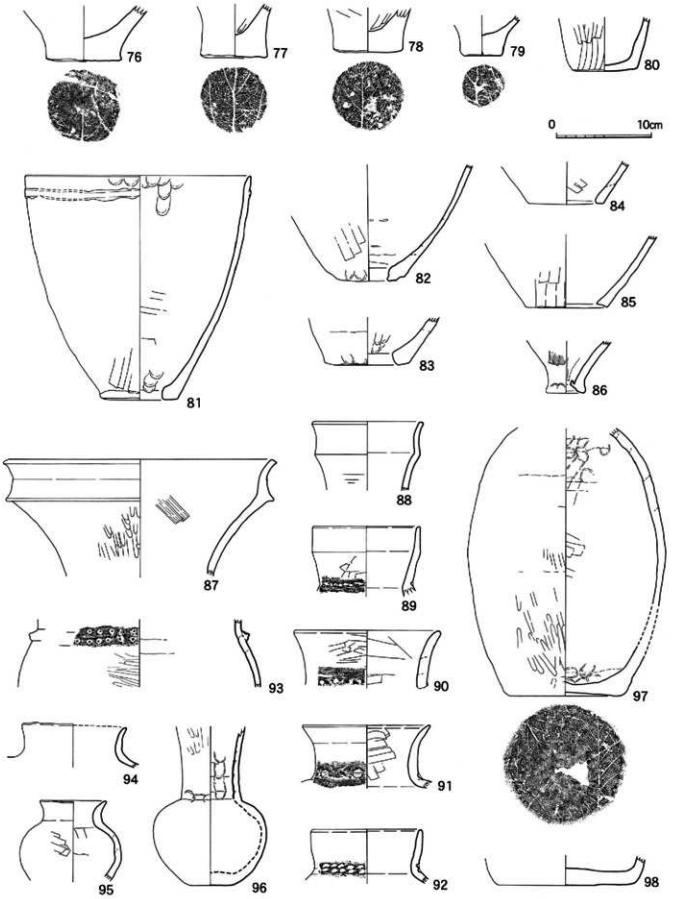
第11図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図①（S＝1／4）



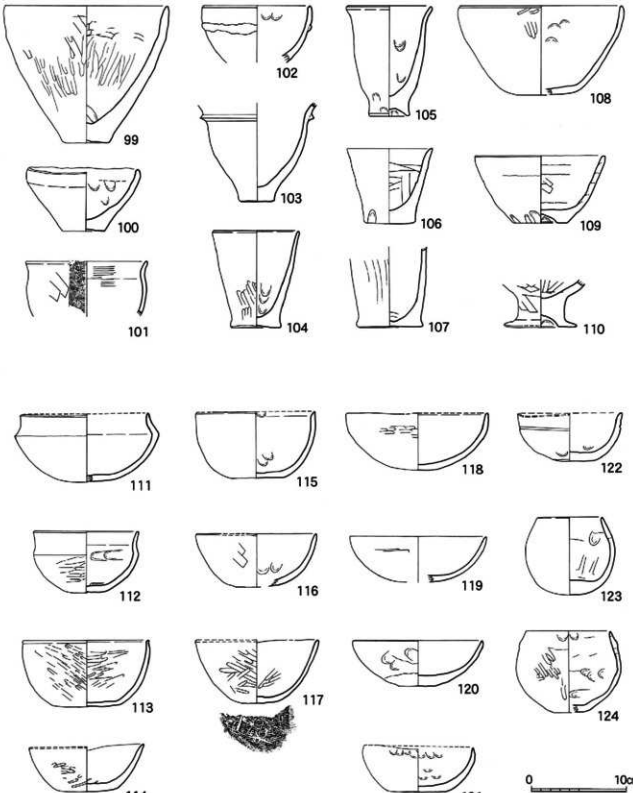
第12図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図②（S＝1／4）



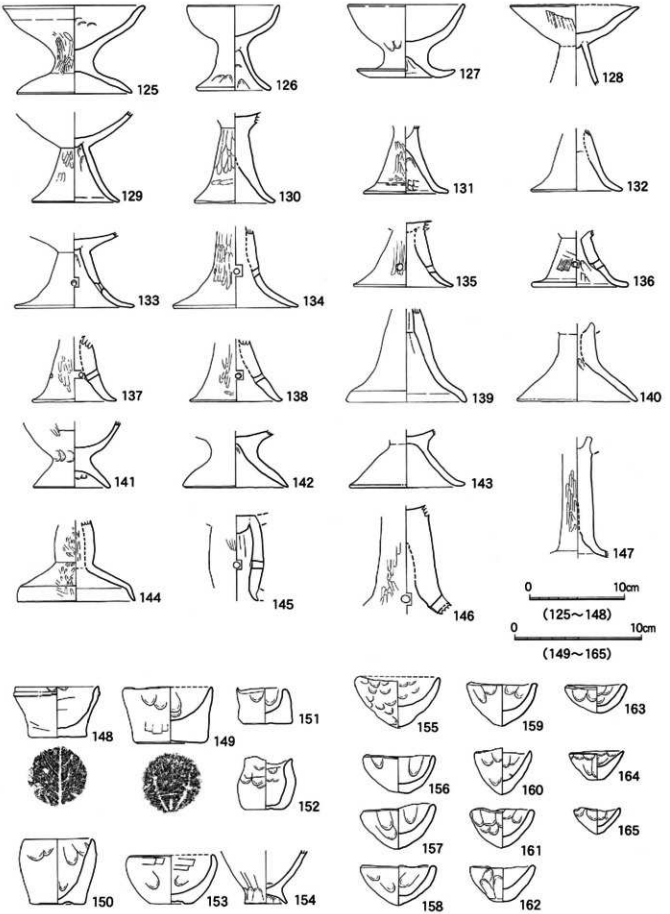
第13図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図③（S＝1／4）



第14図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図④（S＝1／4）



第15図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑤（S＝1／4）



第16図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑥（S＝1／4，1／3）

甕（内面にヘラ削り調整痕をもつもの）（第17図）

前述した甕Ⅰ類～甕Ⅲ類とは明らかに調整が異なり、内面にヘラ削り調整を施す甕をこの項で記述する。166～169は頸部に明確な稜をもち内面に削り調整による砂の動きが確認される。170は頸部からゆるやかに外反し口縁部が最大径をもつ。

坏（第17図）

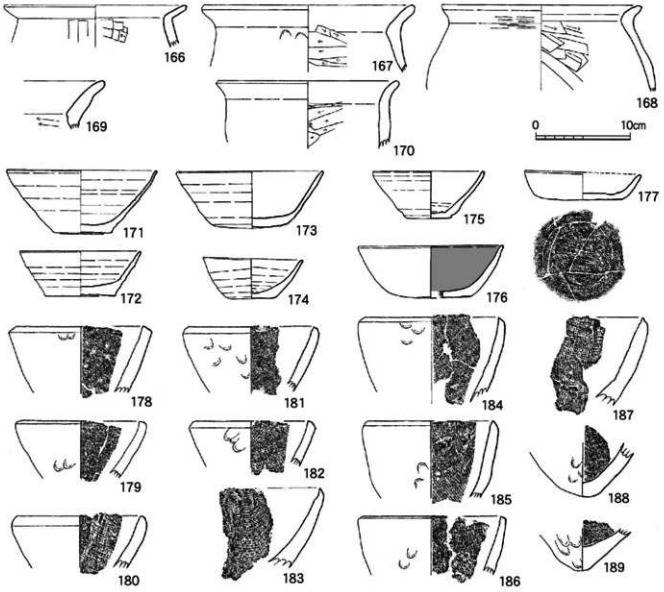
171、172は底部と体部の境が明確で、171は内湾気味172は直線的に立ち上がる。173、174は底部と体部の境が不明瞭で173は直線的に、174は内湾気味に立ち上がる。175は底部にロクロ切り離し部分が薄い円盤状に残る。176は黒色土器A類である。

皿（第17図）

177は底径の大きい糸切り底で、切り離した後についた板目圧痕が残る。

布痕土器（第17図）

いわゆる製塩土器と考えられている土器でやや内湾気味の胴部をもつ。178～182は小型で断面は正三角形状を呈する。183～187はやや大型で断面は縦長の三角形状を呈する。188、189は尖底の底部である。



第17図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑦（S＝1／4）

2　須恵器

坏蓋（第18図）

坏蓋Ⅰ類　退化気味の庇状の突出部をもち、体部は内湾するもの。有蓋高坏の蓋か（190、191）

坏蓋Ⅱ類　口縁部からなだらかに内湾しながら平たい天井部へと続くもの（192～194）

坏蓋Ⅲ類　口縁部からなだらかに内湾しながら丸い天井部へと続くもの（195～197）

坏蓋Ⅳ類　小型で丸い天井部に宝珠状のつまみをもち、口縁部に返りを有するもの（198～203）

坏蓋Ⅴ類　大型で擬宝珠状の平たいつまみをもち、口縁部に返りを有するもの（204～206）

坏蓋Ⅵ類　大型で擬宝珠状の平たいつまみをもち、口縁部が屈曲するもの（207～214）

坏蓋Ⅶ類　屈曲した口縁部とつまみを有し、扁平で小型のもの（215）

坏蓋Ⅷ類　口縁部に屈曲点をもち、口唇部までが長いもの（216）

坏身（第19図）

坏身Ⅰ類　口縁部に立ち上がりを有するもの

A　立ち上がりが長く直立気味のもの（217～219）

B　立ち上がりが短く内傾するもの

a　口径が10cm以上のもの（220～227）

b　口径が10cm以下のもの（228、229）

坏身Ⅱ類　口径が10cm以下の小型坏身で、口縁部が直線的に外傾するもの（230～234）

高坏（第19図）

235は四方に透かし孔をもち裾部で屈曲する。236は脚部を欠くが坏部下位に透かし孔をあけた痕跡がみられる。三方透かしか。237は坏部下位に二条の沈線をもち、その間に櫛描波状文が施される。脚部は三方透かしをもつ長脚二段透かしである。

甕（第19図～第20図）

238は甕の口縁部である。沈線と二段以上の櫛描波状文が施される。239は大型甕の口縁部である。口縁部上位と下位に二段の櫛描波状文が施される。240はゆるやかに外反し、口唇部が丸く調整されている。241～245は中型の甕である。いずれも外面に縦及び斜方向の平行タタキが施され、内面に同心円当て具痕がみられるが頸部や口唇部の形状に若干の違いがみられる。241～243の外面は平行タタキ後カキ目が施される。246、247はいずれも外面調整が格子目タタキであるが、246は格子目タタキ後にナデ調整が施されており、内面調整は回転ナデである。247は内面に平行当て具痕が残る。

壺（第20図）

248は壺の蓋である。天井部付近はヘラ削り、下位は回転ナデである。口縁部は屈曲し外反する。249～251は長頸壺の特徴をもつ。内外面とも回転ナデ調整であるが頸部の形状に若干の違いがみられる。252は焼成不完全で外面に格子目タタキ後、回転ナデ調整を施している。253は内外面とも回転ナデ調整である。254は糸切り底をもつ小型壺である。

甕（第20図）

255は甕の口縁部で外面に櫛描波状文が施される。256は卵倒形の胴部と頸部に浅い凹線と連続刺突文、胴部に円形の穿孔が施される。

平瓶・提瓶（第20図）

257は平瓶で胴部上位にカキ目が残る。258、259は提瓶である。258は内外面とも回転ナデ調整であるが、頸部に須恵器の小片が付着する。259は体部外面にカキ目調整が明瞭に残る。

高台付坏（第21図）

高台付坏Ⅰ類　口縁部が直線的に延び高い高台が外に張り出すもの（260～263）

高台付坏Ⅱ類　口縁部が外反し高い高台が外に張り出すもので、口径が大きく器高の低いもの（264～266）

高台付坏Ⅲ類　口縁部が外反し高い高台が外に張り出すもので、口径が小さく器高の高いもの（267、268）

高台付坏Ⅳ類　口径と底径の差がそれほどなく体部は直線的で、口縁部はそのまま直線的にのびるか外反するもの（269～276）

高台付坏Ⅴ類　口縁部がS字状に広がり、口唇部は細く仕上げられるもの（277～279）

高台付坏Ⅵ類　直線的な体部をもち、低い高台のもの（280、281）

坏（第21図）

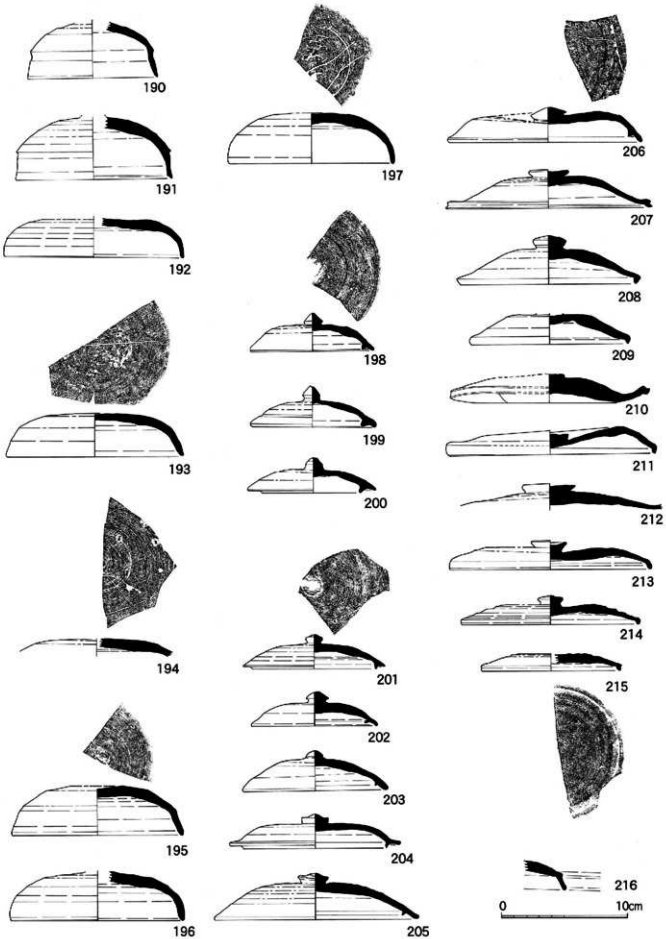
すべて焼成不完全で生焼け気味である。また、底部の切り離し技法はヘラ切りである。282～285は器形的には高台付坏Ⅵ類の坏部に近い。282～284には重ね焼きのため敷いたワラの痕跡が残り、282、284は見込み面、283は内面の体部上位に確認される。282は平底の底部に直線的な体部をもつ。286は器形的には高台付坏Ⅳ類とⅥ類の中間的特徴をもつ。

その他の須恵器（第21図）

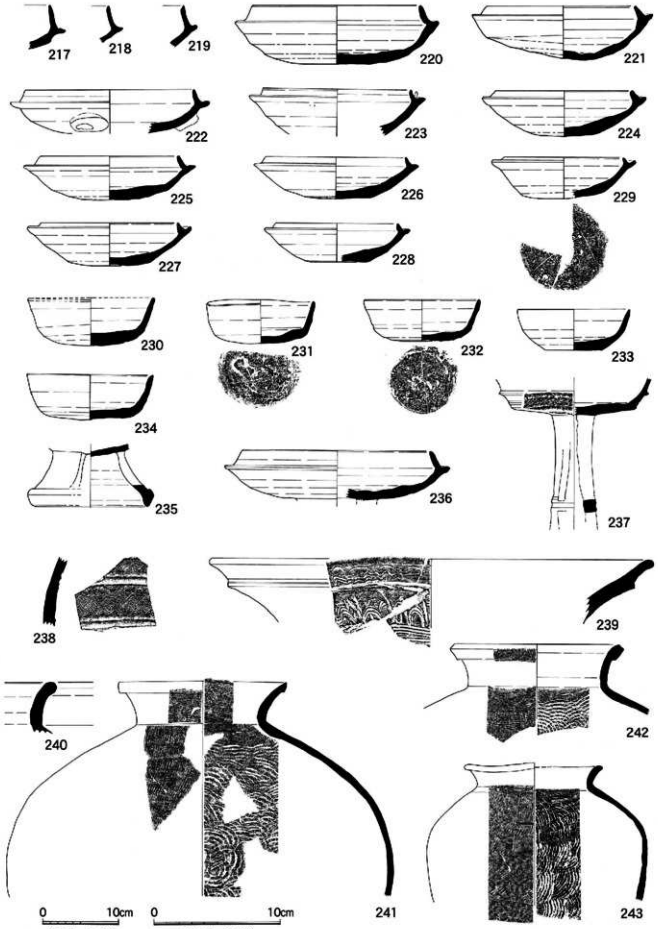
287は甕の底部片と思われるものに、坏蓋の口縁部片が2個体ほぼ平行におかれ、自然釉により付着しているものである。坏蓋は、返りの先端が欠損しているものの、その推定口径や返りの形状から古墳時代後期のものと思われる。288は長頸壺の底部付近と思われるものに、器種は明確でないものの須恵器の小片が付着している。

3　陶磁器（第22図）

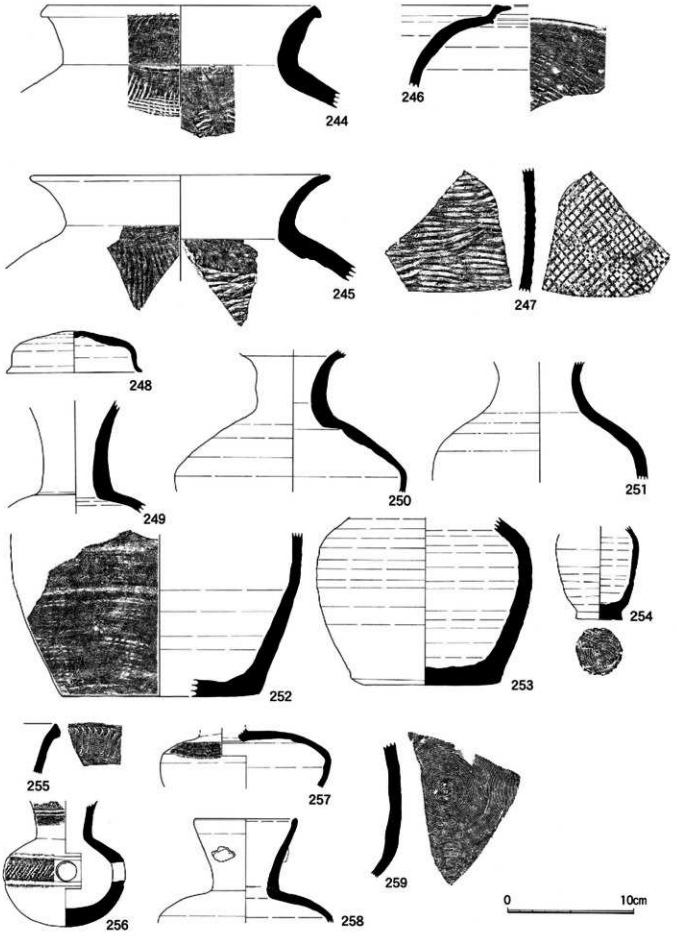
289は越州窯系青磁碗である。胎土に微細な黒色粒子を少量含み、非常に精良である。290、291は緑釉陶器の皿で、高台内面はヘラ切りで丁寧に仕上げられている。290は高台全体、291は高台内面が露胎である。292は緑釉陶器の碗である。露胎はなく畳付幅は13㎜と広い。



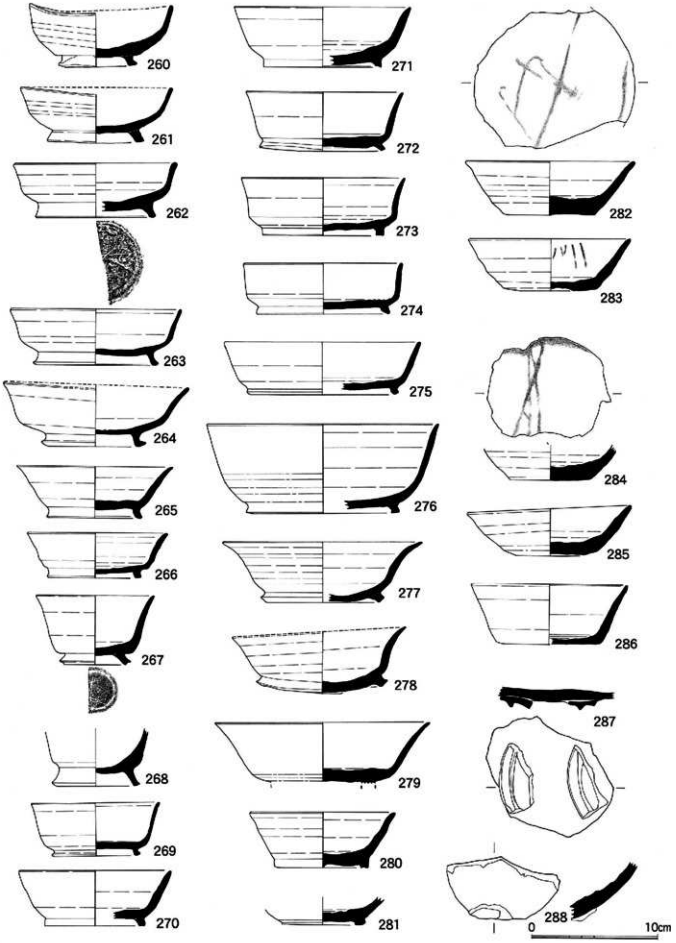
第18図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑧（S＝1／3）



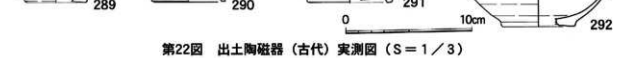
第19図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑨（S＝1／3，1／5）



第20図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑩（S＝1／3）



第21図　出土遺物（古墳時代～古代）実測図⑪（S＝1／3）



第22図　出土陶磁器（古代）実測図（S＝1／3）

第３表　出土土師器（古墳時代～古代）観察表①

遺物番号	種別	器種 部位	出土場所	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様注か 外面	内面	色調 外面	内面	焼成	胎土の特徴	備考
25	土師器	壺 口縁部～胴部	SH244	(30.7)	－	－	ヨコナデ 口唇部面取り 縦方向のナデ 斜方向のハケ目	横方向のナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	良好	5mm以下の褐・暗褐・灰褐色粒	外面黒変
26	土師器	壺 口縁部	C2④	(27.3)	－	－	ヨコナデ 口唇部面取り 指頭痕 斜方向のハケ目	縦方向のハケ目	橙 (5YR8/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	良好	5mm以下の赤・褐灰色粒	
27	土師器	壺 口縁部～胴部	SH329	－	－	－	丁寧なナデ	横方向のナデ 斜方向のナデ	橙 (2.5YR7/6)	橙 (2.5YR6/6)	良好	3mm以下の白・褐灰色粒	内面黒変
28	土師器	壺 口縁部～胴部	C1⑤	(25.0)	－	－	ヨコナデ 丁寧なナデ 工具痕 胴部縦方向ケズリ 斜方向のハケ目	丁寧なナデ	にぶい橙 (5YR6/4)	橙 (5YR7/6)	良好	3mm以下の赤褐・透明・黒色粒	外面黒変
29	土師器	壺 口縁部～胴部	C1⑥	(28.9)	－	－	ヨコナデ ナデ 細に斜行する線	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	良好	2mm以下の茶・白・透明粒 2mm以下の黒色粒状物	内面黒変
30	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	－	－	－	縦方向のナデ 縦条痕付突帯 ナデ	横方向のナデ 工具ナデ	橙 (2.5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	良好	4mm以下の赤・黒色粒 1mm以下の赤褐・灰色粒	外面黒変 粘土のつなぎ目
31	土師器	壺 口縁部	C1③	－	－	－	横方向のナデ 工具による乱 斜方向のナデ 縦条痕付突帯	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	良好	3mm以下の赤・茶・赤褐色粒 1mm以下の透明石英粒	内面黒変
32	土師器	壺 口縁部	C1③	－	－	－	ヨコナデ ナデ 貼付突帯	横・斜方向の工具ナデ	橙 (5YR7/6)	橙 (2.5YR6/6)	良好	5mm以下の赤褐・乳白・黒色粒 1mm以下の透明石英粒	
33	土師器	壺 口縁部～胴部	C1④	－	－	－	ヨコナデ 横方向の工具ナデ の後ナデ 貼付突帯 ナデ	ナデ	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	良好	3mm以下の赤・白・赤褐色粒 0.5mm以下の透明光沢粒	外面黒変 粘土のつなぎ目
34	土師器	壺 口縁部～胴部	C1①	(29.2)	－	－	ヨコナデ 横・斜方向の工具 ナデ 貼付突帯（未刻目）	斜方向の工具ナデ	橙 (2.5YR6/4)	明赤褐 (5YR5/6)	良好	5mm以下の褐・褐灰色粒	外面黒変
35	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	－	－	－	ナデ 貼付突帯	ナデ 斜方向の工具ナデ 指頭痕	淡黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	良好	5mm以下の褐・にぶい褐色粒	粘土のたるみ
37	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	－	－	－	ヨコナデ 口唇部面取り ナデ 縦条痕付突帯	ナデ	淡黄橙 (7.5YR8/4)	橙 (7.5YR7/6)	良好	5mm以下の赤・褐色粒	内面黒変
37	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	(25.4)	－	－	ヨコナデ 口唇部面取り ナデ 指頭痕 工具ナデ	工具ナデ ナデ	橙 (2.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	良好	5mm以下のにぶい褐・褐灰色粒	内面黒変
38	土師器	壺 口縁部～胴部	SH	－	－	－	ナデ 斜方向のナデ 縦条痕付突帯	横方向のナデ ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	灰褐 (7.5YR5/2)	良好	3mm以下の赤・赤褐・淡黄色粒 0.5mm以下の透明光沢粒	粘土のつなぎ目
39	土師器	壺 口縁部～胴部	C0④	－	－	－	ナデ 縦方向のナデ 工具ナデ 指頭痕 貼付突帯	ナデ 横方向の工具ナデ 指頭痕	にぶい橙 (5YR7/3)	にぶい赤褐 (5YR5/3)	良好	5mm以下の灰色粒 0.5mm以下の透明光沢粒	内面下結果痕
40	土師器	壺 口縁部～胴部	C1③	(23.8)	－	－	ナデ 縦条痕付突帯 口縁部面取り	ナデ 口唇部指ナデ 指頭痕	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	良好	6mm以下の褐・褐灰色粒	粘土のつなぎ目 内面黒変
41	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	(24.0)	－	－	ヨコナデ 一部に口唇部面取り ナデ 貼付突帯	ナデ 指頭痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	良好	3mm以下のにぶい黄橙・褐灰色粒	粘土のつなぎ目 内面一部黒変
42	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	(28.2)	－	－	縦方向のナデ ナデ 縦条痕付突帯	縦方向のナデ 指頭痕	淡黄橙 (7.5YR7/4)	淡黄橙 (7.5YR8/4)	良好	5mm以下の灰・茶褐色粒	粘土のつなぎ目
43	土師器	壺 口縁部～底部	C1④	(18.1)	6.5	17.4	ヨコナデ 口唇部面取り 貼付突帯 指頭痕 ハケ目	ナデ 指頭痕	褐灰 (10YR5/1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	良好	1.5mm以下の灰白・橙色粒 0.5mm以下の黒・透明光沢粒	粘土のつなぎ目
44	土師器	壺 口縁部～底部	C0③	(7.8)	6.8	21.6	指ケズリ 口唇部押つまり 縦条痕付突帯 指頭痕	ナデ 工具ナデ 指頭痕	にぶい橙 (10YR7/2)	灰白 (5YR8/2)	良好	3mm以下の褐灰・灰白・茶褐色粒	粘土のつなぎ目 粘土上 木の葉痕
45	土師器	壺 口縁部～底部	H00③	(18.7)	－	－	ヨコナデ 工具ナデ 細に斜行する線	横・縦方向の工具ナデ ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	淡黄橙 (7.5YR8/3)	良好	5mm以下の灰褐色粒	内外面黒変 粘土のつなぎ目
46	土師器	壺 口縁部～胴部	R17	(29.4)	－	－	ナデ 指頭痕 細に斜行する線	ナデ 指頭痕	にぶい橙 (5YR7/4)	褐灰 (5YR6/1)	良好	5mm以下の褐灰・淡黄・灰白色粒	粘土のつなぎ目
47	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	(24.7)	－	－	ヨコナデ ナデ 工具ナデ 縦条痕付突帯	ナデ 指頭痕	にぶい黄橙 (2.5YR6/4)	橙 (5YR6/6)	良好	1.5mm以下の褐灰色粒	
48	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	(23.9)	－	－	ヨコナデ 口唇部面取り 工具ナデ 縦条痕付突帯	ナデ	淡黄橙 (7.5YR7/4)	淡黄橙 (7.5YR7/4)	良好	4mm以下の赤・赤褐・灰白色粒	
49	土師器	壺 口縁部～胴部	C1③	(26.0)	－	－	口唇部面取り 工具ナデ 縦条痕付突帯 ナデ	工具ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	良好	5mm以下の浅黄橙色粒	外面黒変 口唇部粘土のたるみ 粘土のつなぎ目
50	土師器	壺 口縁部～胴部	C1③	(21.7)	－	－	口唇部押つまり ナデ 縦条痕付突帯	工具ナデ ナデ	橙 (7.5YR7/6)	淡黄橙 (7.5YR8/6)	良好	5mm以下の赤褐・灰色粒	粘土のつなぎ目
51	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	(30.6)	－	－	ヨコナデ 口唇部面取り 縦方向のナデ 縦条痕付突帯	横方向のナデ	にぶい橙 (2.5YR6/4)	灰黄 (2.5YR5/2)	良好	5mm以下の白色・褐灰色粒	内面黒変 粘土のつなぎ目
52	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	(14.7)	－	－	ヨコナデ 口唇部面取り ナデ 貼付突帯	ナデ 指頭痕	淡黄橙 (7.5YR8/4)	淡黄橙 (7.5YR8/4)	良好	3mm以下の赤褐色粒 5mm以下の灰・黒・赤褐色粒	外面黒変
53	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	13.7	－	－	ヨコナデ 口唇部面取り 貼付突帯	ナデ 口唇部指ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/3)	橙 (7.5YR6/6)	良好	5mm以下の灰褐・褐色粒	外面黒変 粘土のつなぎ目
54	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	(10.6)	－	－	ヨコナデ 口唇部指つまり 貼付突帯	工具ナデ 口唇部指つまり	淡黄橙 (7.5YR6/3)	淡黄橙 (7.5YR6/4)	良好	6mm以下の灰褐色粒	粘土のつなぎ目 内面黒変
55	土師器	壺 口縁部～胴部	C0③	(12.8)	－	－	ナデ 口唇部面取り 貼付突帯	ナデ 指頭痕	淡黄橙 (7.5YR8/4)	淡黄橙 (7.5YR8/4)	良好	5mm以下の灰・茶褐色粒 2mm以下の白色・灰色粒	口唇部に粘土のたるみ 粘土のつなぎ目
56	土師器	壺 口縁部～胴部	B1	(13.0)	－	－	ナデ 沈線	横方向のナデ 工具ナデ	褐灰 (5YR7/6)	褐灰 (5YR6/1)	良好	5mm以下の灰白・褐灰色粒	外面粘分が白に黒変
57	土師器	壺（須） 天井部	SH328	天井部 4.8	－	－	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	淡黄橙 (10YR8/4)	橙 (7.5YR7/6)	良好	3mm以下の赤・褐・乳白色粒 2mm以下の赤・透明光沢粒	内外面黒変 並ケズリ後不明
58	土師器	壺（須） 天井部	C2	天井部 4.0	－	－	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	良好	3mm以下の褐灰・橙色粒 1mm以下の透明光沢粒	透かし4
59	土師器	壺 胴部～底部	B2④	－	7.1	－	ナデ 指頭痕	ナデ	淡黄橙 (7.5YR8/4)	暗灰 (N3/)	良好	5mm以下の黒・灰色粒	粘分が白に黒変
60	土師器	壺 胴部～底部	D1⑤	－	8.7	－	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	にぶい橙 (2.5YR6/4)	淡黄橙 (7.5YR8/4)	良好	5mm以下の灰色粒 1mm以下の赤褐灰粒	底部一部黒変
61	土師器	壺 胴部～底部	C1③	－	7.7	－	ナデ 工具痕	ナデ 指頭痕	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/6)	良好	4mm以下の褐灰・明赤褐色粒	外面黒変
62	土師器	壺 底部	C1③	－	(6.0)	－	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	淡黄橙 (10YR8/4)	淡黄橙 (10YR8/4)	良好	0.5mm～4mmの茶褐色粒 5mm以下の黒色・乳白色粒	外面黒変
63	土師器	壺 胴部～底部	C2	－	7.2	－	指ナデ	ナデ 指頭痕	橙 (5YR6/6)	明褐灰 (7.5YR7/2)	良好	5mm以下の黒・白色粒 1mm以下の黒・透明光沢粒	
64	土師器	壺 胴部～底部	C1③	－	8.0	－	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	にぶい橙 (2.5YR6/4)	灰褐 (7.5YR5/2)	良好	5mm以下の褐・灰色粒 5mm以下の黒・透明光沢粒	外面一部黒変 裏化 木の葉痕
65	土師器	壺 胴部～底部	C0③	－	8.6	－	工具ナデ ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	にぶい橙 (2.5YR6/4)	灰褐 (7.5YR5/2)	良好	5mm以下の褐・灰色粒 1mm以下の透明光沢粒	外面一部黒変 裏化 木の葉痕
66	土師器	壺 底部	C0③	－	7.3	－	ナデ	工具ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR7/6)	良好	5mm以下の赤褐・灰白・黒褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	内面一部黒変 木の葉痕
67	土師器	壺 胴部～底部	C0③	－	7.2	－	ナデ 指頭痕	ナデ	にぶい橙 (5YR6/4)	褐灰 (7.5YR4/1)	良好	5mm以下の暗褐・褐灰色粒 1mm以下の白色・灰色粒	裏化 木の葉痕？

第４表　出土土師器（古墳時代～古代）観察表②

遺物番号	種別	器種	器種部位	出土場所	法量 (cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	焼成	胎土の特徴	備考
68	土師器	甕	胴部～底部	C0⑨	－	7.2	－	ナデ　指頭痕	ナデ	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	良好	4mm以下の褐灰・褐色粒	内面黒変 木の葉底
69	土師器	甕	胴部～底部	C1⑨	－	6.2	－	工具ナデ　ナデ　指頭痕	工具ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	良好	8mm以下の赤褐色粒 2mm以下の黒色粒状光沢粒	底部黒変
70	土師器	甕	胴部～底部	C0⑨	－	8.8	－	ナデ	ナデ　指頭痕	灰 (7.5YR7/8)	灰 (10Y4/1)	良好	5mm以下の灰・黄・灰白色粒	外面一部黒変
71	土師器	甕	胴部～底部	C1⑨	－	7.4	－	工具ナデ　ナデ	斜方向の工具ナデ　指頭痕	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	良好	5mm以下の褐灰・赤褐・黄白・橙色粒	外面黒変 脚主のかき
72	土師器	甕	胴部～底部	C0⑨	－	6.9	－	斜・縦方向の工具ナデ　ナデ	斜・縦方向の工具ナデ	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	良好	2mm以下の透明光沢粒 4mm以下の橙・淡黄粒・灰白粒	内面一部黒変 脚主のよれ
73	土師器	甕	胴部～底部	C1⑨	－	7.2	－	丁寧なナデ　ナデ　指頭痕	ナデ	浅黄橙 (2.5Y8/3)	にぶい橙 (10YR7/3)	良好	3mm以下の透明・黒色光沢粒 2mm以下の金色粒状粒	風化　内外面黒変
74	土師器	甕	胴部～底部	SH390	－	4.6	－	丁寧なナデ　ナデ	丁寧なナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/4)	良好	2mm以下の灰白・透明・黒色粒 3mm以下の透明光沢粒	黒変
75	土師器	甕	胴部～底部	B1⑨	－	7.5	－	ナデ　脚部付近突帯(右捩状)　指頭痕	工具ナデ　指頭痕	にぶい褐 (7.5YR7/4)	明褐色 (7.5YR7/2)	良好	3mm以下の黒色粒・灰色光沢粒 4mm以下の灰褐色粒	脚主のつなぎ目
76	土師器	甕	胴部～底部	C1⑨	－	8.0	－	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	良好	3mm以下の灰褐・褐色粒	脚主のよれ 内面一部黒変
77	土師器	甕	胴部～底部	C0⑨	－	7.1	－	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	灰 (N4/)	良好	4mm以下の褐・灰・黒色粒 3mm以下の透明光沢粒	外面黒変 木の葉底
78	土師器	甕	底部	SH298	－	7.3	－	工具痕　ナデ	工具痕　ナデ	黄橙 (7.5YR7/6)	黒褐 (7.5YR3/1)	良好	5mm以下の灰・オリーブ黒色粒	内外面黒変 木の葉底
79	土師器	甕	底部	C1⑨	－	4.2	－	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	黄橙 (10YR8/6)	良好	4mm以下の赤・褐・灰白・黒色粒 3mm以下の透明光沢粒	風化 木の葉底(葉脈痕か?)
80	土師器	甕	胴部～底部	C0⑨	－	7.0	－	工具ナデ　ナデ	ナデ	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (5YR6/4)	良好	2mm以下の黒褐・灰白色粒 1mm以下の透明光沢粒	風化著しい
81	土師器	甕	口縁部～底部	C0⑨	(23.7)	8.2	23.6	工具ナデ　ナデ　指頭痕 斜行突帯	工具ナデ　指頭痕	橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/4)	良好	6mm以下の灰・赤褐・黄灰色粒	内外面黒変 外面脚上止
82	土師器	甕	胴部～底部	B1⑨	－	6.2	－	工具ナデ　指頭痕	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	良好	5mm以下の褐灰・褐色粒	内面脚主のつなぎ目 脚主のよれ
83	土師器	甕	胴部～底部	C0⑨	－	8.9	－	ナデ　指頭痕	工具ナデの後指ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	良好	5mm以下の灰褐・褐灰色粒	脚主のつなぎ目 外面一部黒変
84	土師器	甕	胴部～底部	C0⑨	－	8.0	－	ナデ	工具ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	良好	5mm以下の灰褐・褐灰色粒	内面黒変 脚主のつなぎ目
85	土師器	甕	胴部～底部	C0⑨	－	8.8	－	縦方向の工具ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	褐灰 (7.5YR6/1)	良好	5mm以下の褐・褐灰色粒	内面黒変
86	土師器	甕	底部	B2⑨	－	3.9	－	ハケ目　ナデ　指頭痕	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	良好	1.5mm以下のにぶい黄橙・褐灰色粒	内面脚主のしぼり目・脚主のかき上げ
87	土師器	壺	口縁部～頸部	A1⑨	(27.7)	－	－	ヨコナデ 風化著しいが一部ミガキ	ハケ目　ナデ	橙 (5YR7/8)	橙 (7.5YR6/6)	良好	3mm以下の赤褐・灰褐・灰白色粒	風化
88	土師器	壺	口縁部～頸部	C0⑨	(11.0)	－	－	縦方向のナデ　工具ナデ	縦方向のナデ	橙 (2.5YR6/8)	橙 (7.5YR7/6)	良好	1mm以下の灰白・黄・赤白色粒 2mm以下の透明光沢粒	内面黒変
89	土師器	壺	口縁部～頸部	C3	(11.0)	－	－	一部ナデ　ナデ　ナデ　工具痕　斜突帯	ナデ	橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	良好	1mm～3mm以下の褐色粒 3mm以下の黒色光沢粒	
90	土師器	壺	口縁部～頸部	C1⑨	(15.0)	－	－	縦方向の工具ナデ　斜突文	ナデ　工具痕	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	良好	4mm以下の灰白・褐・丸白色粒 1mm以下の透明光沢粒	
91	土師器	壺	口縁部～頸部	C1⑨	(13.4)	－	－	ナデ　縦方向のナデ　列の斜突文	縦方向のナデ　工具ナデ　指頭痕	橙 (2.5YR6/8)	橙 (2.5YR6/8)	良好	1mm～4mm以下の灰・褐色粒 2mm以下の透明光沢粒	脚主のつなぎ目
92	土師器	壺	口縁部～頸部	C1⑨	(11.4)	－	－	ナデ　縦方向のナデ　列の斜突文	縦方向のナデ　指頭痕	橙 (5YR7/6)	灰白 (5YR8/2)	良好	5mm以下の灰・褐色粒 3mm以下の黒色光沢粒	脚主のつなぎ目
93	土師器	壺	胴部～頸部	C1⑨	－	－	－	ナデ　ミガキ　沿付突帯　竹管文	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	良好	1mm以下の灰褐・褐灰色粒	脚主のつなぎ目 内面一部黒変
94	土師器	壺	口縁部～頸部	C0⑨	10.9	－	－	縦方向のナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	黄灰 (2.5Y6/1)	良好	3mm以下の黒・灰・赤褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	脚主のつなぎ目
95	土師器	壺	口縁部～頸部	C0⑨	7.0	－	－	ヨコナデ　横方向のナデ　工具ナデ	ナデ	橙 (5YR7/6)	橙 (7.5YR7/4)	良好	3mm以下の灰・褐・黒色粒 1mm以下の透明光沢粒	脚主のつなぎ目 内面脚主のしぼり目
96	土師器	壺	頸部～底部	C0⑨	－	4.7	－	丁寧なナデ　ナデ　指頭痕	ナデ　指頭痕	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	良好	2mm以下の赤褐・灰・灰白色粒 1mm以下の黒・透明光沢粒	脚主のつなぎ目 外面黒変
97	土師器	壺	頸部～底部	C1⑨	－	12.1	－	ナデの後ミガキ 縦方向のミガキ	接痕痕　絞・縦方向の工具ナデ	にぶい橙 (5YR6/4)	にぶい橙 (5YR7/3)	良好	3mm以下の赤褐色粒 2mm以下の透明光沢粒	脚主のつなぎ目 木の葉底(葉脈痕か?)
98	土師器	壺	底部	C0⑨	－	14.4	－	ナデ	ナデ	橙 (5YR6/8)	褐灰 (0.5YR4/1)	良好	2mm以下の黒褐・灰白・赤褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	風化 外面一部黒変
99	土師器	鉢	口縁部～底部	D3⑨	(16.9)	4.8	14.6	工具痕　一部風化気味だが一工具痕の後ミガキ　指頭痕	一部風化気味だが工具痕の後ミガキ後　指頭痕	にぶい橙 (5YR7/6)	褐灰 (5YR6/1)	良好	5mm以下の灰色粒	内面に黒変 外面脚主のつなぎ目
100	土師器	鉢	口縁部～底部	C1	11.5	4.4	6.7	ヨコナデ　ナデ	ナデ　指頭痕	褐灰 (10YR6/1)	褐灰 (10YR5/1)	良好	1mm以下の褐灰・透明粒	脚主のつなぎ目
101	土師器	鉢	口縁部～胴部	C1⑨	(12.8)	－	－	沈線　工具ナデ	工具ナデ	橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	良好	3mm以下の褐灰・褐色粒	内面器台形に黒変
102	土師器	鉢	口縁部～胴部	C0⑨	(11.2)	－	－	ヨコナデ　貼付突帯	ナデ　指頭痕	橙 (5YR7/6)	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	良好	2mm以下の明褐・黒灰・灰褐色粒	外面巨化物付着 内面黒変　風化
103	土師器	鉢	口縁部～底部	A1⑨	(11.8)	2.9	－	ヨコナデ　三条状の貼付突帯 ナデ　指頭痕	ナデ	橙 (5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	良好	0.5mm～3mm以下の灰・赤褐色粒	
104	土師器	鉢	口縁部～底部	C0⑨	(8.4)	5.0	10.2	ヨコナデ　ナデ　ミガキ	ナデ　指頭痕	浅黄橙 (5YR8/4)	灰白 (5YR7/2)	良好	1mm以下の赤褐・褐灰色粒	
105	土師器	鉢	口縁部～底部	B2⑨	(8.7)	(4.0)	11.6	ナデ　口唇部が皿状になっている	ナデ　指頭痕	浅黄橙 (5YR8/4)	灰白 (10YR7/1)	良好	0.5mm～3mmの赤褐色粒	
106	土師器	鉢	口縁部～底部	表土	－	5.0	－	風化気味だが一部指頭痕がみられる	縦方向の指ナデ　工具痕	橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	良好	3mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰色粒	
107	土師器	鉢	口縁部～底部	SH407	－	7.1	－	工具ナデ　ナデ	ナデ	浅橙 (5YR8/4)	橙 (5YR6/6)	良好	1mm以下の赤褐・灰・灰白色粒	風化
108	土師器	鉢	口縁部～底部	C1⑨	(17.0)	(4.9)	9.4	風化気味だがミガキ	風化気味だが部位不明のミガキ　指頭痕	橙 (2.5YR6/8)	橙 (5YR6/6)	良好	3mm以下の黒褐・灰白・赤褐色粒	外面一部黒変
109	土師器	鉢	口縁部～底部	C1⑨	(13.6)	5.2	7.2	ヨコナデ　ナデ　指頭痕	ナデ　工具痕	橙 (5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	良好	2mm以下の褐灰・赤褐・灰白色粒	脚主のつなぎ目
110	土師器	鉢	口縁部～底部	C0⑨	－	7.7	－	斜方向の工具ナデ ヨコナデ　ナデ	工具ナデ　指頭痕	橙 (5YR7/6)	褐灰 (10YR5/1)	良好	6mm以下の明褐・褐灰・灰白・黒褐色粒	脚主のつなぎ目
111	土師器	鉢	口縁部～底部	C0⑨	13.2	(5.0)	(7.2)	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR7/4)	褐灰 (7.5YR6/1)	良好	3mm以下の赤褐・褐灰・黒色粒 1mm以下の透明光沢粒	風化
112	土師器	鉢	口縁部～底部	C2⑨	(11.1)	(3.0)	6.6	縦方向のナデ　ミガキ　ナデ	丁寧なナデ　指ナデ	褐灰 (10YR5/1)	褐灰 (7.5YR6/1)	良好	2.5mm以下の黒褐・灰褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	
113	土師器	鉢	口縁部～底部	C0⑨	(12.4)	(7.0)	7.0	ミガキ	ミガキ	橙 (5YR6/6)	褐灰 (5YR5/1)	良好	3mm以下の褐灰色粒	内面黒変
114	土師器	鉢	口縁部～底部	C0⑨	12.6	6.4	(4.7)	縦方向のミガキ	風化気味だが丁寧なナデ	浅赤橙 (2.5YR7/4)	橙 (5YR7/6)	良好	2mm以下の赤褐・灰白・黒色粒	

第５表　出土土師器（古墳時代～古代）観察表③

遺物番号	種別	器種	器種部位	出土場所	法量(cm) 底径	口径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	焼成	胎土の特徴	備考
115	土師器	甕	口縁部～底部	C0⑨	12.6	5.6	7.0	丁寧なナデ　ナデ	丁寧なナデ　指頭痕	にぶい橙(5YR7/4)	にぶい橙(5YR7/4)	良好	3.5mm以下の砂粒・褐色鉱物	
116	土師器	甕	口縁部～底部	C0⑨	12.6	4.3	(5.6)	ナデ　工具痕	皮質痕　指頭痕	皮質色(10YR8/3)	皮質色(10YR8/4)	良好	6mm以下の黒鉱・灰色鉱 3mm以下の透明光沢粒	風化
117	土師器	甕	口縁部～底部	C0⑨	12.8	2.0	(6.7)	ナデ　ヨコナデ　斜方向のミガキ　指頭	ナデ　ミガキ	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/7)	良好	4.5mm以下の黒色粒 1mm以下の灰白・褐色粒	内面黒変
118	土師器	甕	口縁部～底部	C0⑨	14.8	2.8	(6.4)	ミガキ　丁寧なナデ　ナデ	丁寧なナデ	赤橙(2.5YR6/1)	淡赤橙(2.5YR7/3)	良好	1mm以下の灰白・褐灰・黒色粒 1mm以下の透明光沢粒	
119	土師器	甕	口縁部～底部	C0⑨	14.4	－	－	工具痕　風化気味だが丁寧なナデ	丁寧なナデ	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	良好	2mm以下の褐灰色粒	内面黒変　風化
120	土師器	甕	口縁部～底部	B1⑨	(13.5)	(4.0)	4.8	ナデ　指頭痕	丁寧なナデ	橙(5YR7/6)	淡黄橙(5YR8/6)	良好	3mm以下の赤褐色粒	粘土のつなぎ目　風化
121	土師器	甕	口縁部～底部	C0⑨	(11.4)	6.0	(4.9)	ナデ　指頭痕	ナデ　指頭痕	橙(7.5YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	良好	7mm以下のにぶい黄褐・褐灰・赤褐・灰白鉱	
122	土師器	甕	口縁部～底部	C0⑨	10.9	3.2	(5.0)	ヨコナデ　ナデ　指頭痕　押縁	ナデ　指頭痕	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	良好	4mm以下の灰褐・明赤褐・黒・灰白鉱	内面一部黒変
123	土師器	甕	口縁部～底部	C1⑨	(6.6)	－	8.2	丁寧なナデ	ナデ　工具痕　指頭痕	にぶい橙(7.5YR7/4)	淡黄橙(7.5YR8/4)	良好	3mm以下の赤褐色粒 2mm以下の黒角礫状粒	粘土のつなぎ目
124	土師器	高杯	口縁部～底部	C0⑨	(8.9)	(3.3)	8.6	ミガキ　指頭痕	ナデ　指頭痕	橙(7.5YR7/6)	明褐灰(7.5YR7/1)	良好	6mm以下の赤褐・灰色粒	粘土のつなぎ目
125	土師器	高杯	杯部～脚部	C0⑨	(14.8)	(12.0)	9.3	ミガキ　ヨコナデ	ナデ　指頭痕	橙(5YR7/6)	淡黄橙(5YR8/4)	良好	2mm以下の褐・橙・黒色粒	風化
126	土師器	高杯	杯部～脚部	C0⑨	(9.5)	(7.5)	9.0	ヨコナデ　指頭痕	丁寧なナデ　指頭痕	橙(5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	良好	2mm以下の黒鉱・赤褐・灰白色等の粒　1mm以下の透明光沢粒	粘土のつなぎ目　風化
127	土師器	高杯	杯部～脚部	C0⑨	(12.3)	(10.3)	7.7	ヨコナデ　指頭痕	ナデ　工具痕	橙(7.5YR7/6)	褐灰(7.5YR6/1)	良好	3mm以下の褐灰・赤褐・灰白色等の粒　1mm以下の透明光沢粒	粘土のつなぎ目　風化
128	土師器	高杯	杯部～脚部	B0⑨	13.3	－	－	ヨコナデ　風化著しいがハケ目	ナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	良好	1mm以下の褐灰色粒 1mm以下の透明光沢粒	内面黒変
129	土師器	高杯	杯部～脚部	C1⑨	－	9.4	－	丁寧なナデ　ミガキ　ヨコナデ	ナデ　回転板　横方向のナデ　風化気味だが丁寧なナデか	橙(2.5YR6/6)	橙(2.5YR6/8)	良好	1mm以下の黒色粒 2mm以下の透明光沢粒	内面一部黒変
130	土師器	高杯	脚部～裾部	C3⑨	－	8.6	－	風化気味だがミガキ　ヨコナデ	丁寧なナデ　横方向のナデ	橙(5YR6/6)	褐灰(7.5YR6/1)	良好	2mm以下の赤褐色粒 2mm以下の灰色粒	
131	土師器	高杯	脚部～裾部	D3⑨	－	8.8	－	風化気味だがミガキ	工具痕　指頭痕	橙(5YR6/6)	褐灰(5YR4/1)	良好	3mm以下の褐灰・褐色粒	外面黒化　内面黒変
132	土師器	高杯	脚部～裾部	C1⑨	－	9.8	－	風化気味だが丁寧なナデ	ナデ	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/8)	良好	1mm以下の灰白・黒色粒 2mm以下の透明光沢粒	
133	土師器	高杯	杯部～脚部	C1⑨	(12.6)	(12.6)	－	丁寧なナデ　ナデ	ナデ　指頭痕	にぶい黄橙(10YR7/5)	にぶい黄橙(10YR7/3)	良好	1mm以下の褐・灰・黒・白色粒 2mm以下の黒・透明光沢粒	風化　歪み。（現存3箇所定4箇）
134	土師器	高杯	脚部～裾部	C1⑨	－	(13.3)	－	ミガキ　ナデ	ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	良好	3mm以下の灰・黒・灰白・褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	歪み。（現存4割）風化
135	土師器	高杯	脚部～裾部	C1⑨	－	(10.5)	－	ミガキ　ヨコナデ	ミガキ	にぶい橙(7.5YR7/3)	オリーブ黒(7.5Y3/1)	良好	3mm以下の灰白・黒・灰色・褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	歪み。（現存4割）風化
136	土師器	高杯	脚部～裾部	表土	－	(9.5)	－	ハケ目　工具痕　ナデ	工具痕　ナデ　指頭痕	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	良好	1mm以下の黒鉱色粒 1mm以下の黒色光沢粒	穿孔
137	土師器	高杯	脚部～裾部	C1⑨	－	9.0	－	ミガキ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	良好	3mm以下の褐・橙・灰白・黒色粒　1mm以下の透明光沢粒	歪み。（現存4割）内面一部黒変　風化
138	土師器	高杯	脚部～裾部	C1⑨	－	9.8	－	ミガキ　ヨコナデ	ナデ	橙(5YR7/6)	橙(5YR6/6)	良好	1mm以下の褐・赤褐・灰白色粒 1mm以下の透明光沢粒	外面一部黒変 歪み。（現存2割）
139	土師器	高杯	脚部～裾部	C1⑨	－	(12.6)	－	丁寧なナデ　横方向のナデ	ナデ	にぶい橙(5YR7/4)	灰(5Y4/1)	良好	4mm以下の赤褐・褐灰・灰白・黒色粒　2mm以下の黒角礫粒　1mm以下の透明光沢粒	内外黒変　内面粘土上ぬ　風化
140	土師器	高杯	脚部～裾部	C1⑨	－	12.8	－	丁寧なナデ　ヨコナデ	横方向のナデ　指頭痕	にぶい橙(10YR7/4)	橙(5YR7/6)	良好	2mm以下の褐灰・にぶい褐・灰白色粒　1mm以下の透明光沢粒	未調整
141	土師器	高杯	脚部～裾部	C0⑨	－	(8.0)	－	風化気味だがミガキ　ナデ　指頭痕	ナデ　指頭痕	橙(5YR7/6)	灰白(10YR8/2)	良好	5mm以下の黒・褐色粒 2mm以下の褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	
142	土師器	高杯	脚部～裾部	C0⑨	－	11.1	－	ヨコナデ	ナデ　指頭痕	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	良好	3mm以下の黒鉱・明褐灰・明褐色粒	風化
143	土師器	高杯	脚部～裾部	C0⑨	－	12.1	－	一部丁寧なナデ	ナデ	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	良好	1mm以下の褐灰・赤褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	風化
144	土師器	高杯	脚部～裾部	C3⑨	－	12.4	－	ミガキ	ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/8)	良好	3mm以下の褐・赤褐・灰褐色粒	内面に粘土のしぼり目
145	土師器	高杯	脚部～裾部	C1⑨	－	－	－	ナデ　ミガキ	ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	橙(5YR7/6)	良好	2mm以下の灰白・灰・褐・黒色粒 1mm以下の透明光沢粒	歪み。（現存2箇所定4箇）　風化
146	土師器	高杯	脚部～裾部	B2⑨	－	－	－	横方向のミガキ	ナデ	橙(5YR7/6)	灰白(10YR7/1)	良好	2.5mm以下の褐色粒 1mm以下の灰白色粒	穿孔　内面黒変
147	土師器	高杯	脚部	C1⑨	－	－	－	ミガキ	ナデ	橙(5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	良好	2mm以下の赤褐色粒	
148	土師器	ミニチュア土器（鉢形）1種第一底部		B2⑨	(8.6)	6.2	5.3	指つまみ　粘土突帯　ナデ　工具痕	指つまみ　ナデ　一部灰色変色	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	良好	6mm以下の灰褐・明赤褐・褐灰色の粒	本の葉痕　内面に粘土のつなぎ目
149	土師器	ミニチュア土器（鉢形）1種第一底部		C1⑨	6.8	4.9	4.5	工具痕　ナデ　指つまみ	指つまみ　ナデ　指頭痕	浅黄橙(7.5Y8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	良好	3mm以下の黄褐・白色・赤色粒	本の葉痕
150	土師器	ミニチュア土器（鉢形）1種第一底部		B3⑨	(5.4)	4.4	5.2	ナデ　指つまみ	指つまみ　ナデ　指頭痕	灰(N5/)　灰(N5/)	良好	1mm以下の黄褐・白色・赤色粒	
151	土師器	ミニチュア土器（鉢形）1種第一底部		C1⑨	3.8	3.8	2.8	ナデ　指頭痕	ナデ　指頭痕	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR6/8)	良好	4mm以下の褐灰・灰白・黒褐色粒	外面に一部黒変
152	土師器	ミニチュア土器（鉢形）1種第一底部		C3⑨	3.7	3.0	3.9	ナデ　指頭痕	ナデ　指頭痕	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	良好	1mm以下の赤褐色粒	内外面に粘土のつなぎ目
153	土師器	ミニチュア土器（鉢形）1種第一底部		C0⑨	6.5	3.5	3.9	指頭痕　横方向の工具ナデ	指頭痕　横方向の工具ナデ	橙(5YR7/6)	淡橙(7.5YR7/3)	良好	1mm以下の透明光沢粒	上げ底
154	土師器	ミニチュア土器（鉢形）1種第一底部		SH357	－	3.5	－	工具ナデ　指頭痕　ナデ	ナデ　指頭痕	灰白(10YR7/1)	明黄褐(10YR7/6)	良好	2mm以下の赤褐・灰色粒	外面一部黒変
155	土師器	ミニチュア土器（不明品）1種第一底部		D3⑨	6.2	－	(4.1)	指つまみ　ナデ　指頭痕	指つまみ　ナデ　指頭痕	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	良好	4mm以下のにぶい赤褐・灰・灰白色粒	外面一部黒変
156	土師器	ミニチュア土器（不明品）1種第一底部		C3⑨	5.3	－	2.8	指つまみ　ナデ　指頭痕	指つまみ　ナデ　指頭痕	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	良好	1mm以下の透明光沢粒	外面に黒変
157	土師器	ミニチュア土器（不明品）1種第一底部		C3⑨	5.6	－	3.3	ナデ　指頭痕	ナデ　指頭痕	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(2.5YR5/6)	良好	1mm以下の黒鉱・赤褐・灰白色粒	外面に黒変
158	土師器	ミニチュア土器（不明品）1種第一底部		SH317	5.5	－	3.1	指つまみ　ヨコナデ　指頭痕	指つまみ　指頭痕	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/8)	良好	2mm以下の赤褐・灰色粒	外面茶褐色の付着物
159	土師器	ミニチュア土器（不明品）1種第一底部		D3⑨	5.1	－	3.3	指つまみ　ナデ　指頭痕	指つまみ　ナデ　指頭痕	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	良好	2mm以下の黒鉱・赤褐・灰白色粒	内外面に黒変
160	土師器	ミニチュア土器（不明品）1種第一底部		SH89	4.4	－	3.7	指つまみ　ナデ　指頭痕	指つまみ　ナデ　指頭痕	褐灰(7.5YR4/1)	褐灰(7.5YR4/1)	良好	1mm以下の赤褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	外内黒変
161	土師器	ミニチュア土器（不明品）1種第一底部		C1	4.6	－	3.1	指つまみ　ナデ　指頭痕	指つまみ　ナデ　指頭痕	にぶい黄橙(10YR7/3)	灰黄(10YR6/2)	良好	6mm以下の赤褐・灰黄・黒色透明光沢粒	

第６表　出土土師器（古墳時代～古代）観察表④

遺物番号	種別	器種 器部位	出土場所	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様など 外面	内面	色調 外面	内面	焼成	胎土の特徴	備考
163	土師器	ミニチュア椀（手捏ね）口縁部～底部	SH161	4.8	1.6	2.8	指つまみ　ナデ　指頭痕	指つまみ　ナデ　指頭痕	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	良好	3mm以下の灰白・赤褐色粒	内外面黒変
163	土師器	ミニチュア椀（手捏ね）口縁部～底部	C3⑨	4.5	－	2.2	指つまみ　ナデ　指頭痕	指つまみ　ナデ　指頭痕	橙（7.5YR7/6）	橙（2.5YR7/8）	良好	2mm以下の灰白・褐・赤褐・無色透明光沢粒	
164	土師器	ミニチュア椀（手捏ね）口縁部～底部	C3⑨	4.3	1.3	2.3	指つまみ　ナデ　指頭痕	指つまみ　ナデ　指頭痕	灰白（7.5YR8/1）	灰白（7.5YR8/2）	良好	2mm以下の赤黒色粒	
165	土師器	ミニチュア椀（手捏ね）口縁部～底部	C2⑨	3.6	－	2.0	指つまみ　ナデ　指頭痕	指つまみ　ナデ　指頭痕	橙（5YR7/6）	にぶい橙（5YR7/3）	良好	1.5mm以下の赤茶・褐灰・無色透明光沢粒	
166	土師器	甕 口縁部	C0⑨	(18.8)	－	－	ヨコナデ　横方向の工具ナデ　版方向の工具ナデ	横方向のナデ　ヘラ削り	鳩（7.5YR4/5）	明赤褐（5YR5/6）	良好	2mm以下の灰白・黒褐・橙色粒	
167	土師器	甕 口縁部～頸部	C2	(22.0)	－	－	ヨコナデ　指頭痕　横方向のナデ	横方向のナデ　斜方向のヘラ削り	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR7/6）	良好	2mm以下の黒褐・灰白色粒	
168	土師器	甕 口縁部～頸部	D4⑨	(21.0)	－	－	ヨコナデ　横方向のナデ　版化気味だがナデ	横方向のナデ　斜方向のヘラ削り	橙（7.5YR6/6）	明赤褐（2.5YR5/8）	良好	1mm～3mmの灰白色粒　1mm～3mmの透明光沢粒	
169	土師器	甕 口縁部	SH195	－	－	－	ヨコナデ　横方向のナデ	横方向のナデ　斜方向のヘラ削り	灰褐（7.5YR4/2）	灰褐（7.5YR4/2）	良好	3mm以下の金色にる砂　2mm以下の灰白色粒	
170	土師器	甕 口縁部～頸部	表土	(18.6)	－	－	ヨコナデ　横方向のナデ　ナデ	斜方向のヘラ削り　ナデ	褐灰（10YR2/1）	灰褐（7.5YR4/2）	良好	1mm以下の褐灰・赤褐・灰白色粒	
171	土師器	坏 口縁部～底部	C3⑨	(15.6)	6.2	6.7	回転ナデ	回転ナデ	橙（2.5YR6/8）	橙（2.5YR7/8）	良好	1mm以下の褐灰・黒・赤褐粒	ヘラ切り
172	土師器	坏 口縁部～底部	B1	(12.8)	(7.2)	4.7	回転ナデ	回転ナデ	灰白（5YR8/2）	淡赤橙（2.5YR7/3）	良好	あめ細か	外底部分的に黒変　板圧痕　ヘラ切り
173	土師器	坏 口縁部～底部	B1	(15.4)	8.2	6.0	風化気味だが回転ナデ　ヘラ削りの後指なでナデ	風化気味だが回転ナデ	淡橙（5YR8/3）	淡橙（5YR8/3）	良好	あめ細か	ヘラ切り
174	土師器	坏 口縁部～底部	SH237	10.6	5.0	4.3	回転ナデ	回転ナデ	橙（5YR7/6）	橙（5YR7/6）	良好	2mm以下の褐色粒	ヘラ切り
175	土師器	坏 口縁部～底部	C0⑨	(11.8)	4.9	5.0	風化気味だが回転ナデ	風化気味だが回転ナデ	橙（5YR7/6）	橙（2.5YR7/8）	良好	あめ細か	ヘラ切り
176	土師器	坏(内黒土器) 口縁部～底部	C3⑨	15.2	8.3	5.5	ミガキ　回転ナデ　ナデ	ナデ	にぶい橙（10YR6/3）	オリーブ黒（5Y3/1）	良好	3mm以下の石英粒砂　1mm以下の透明光沢粒	外面一部黒変　風化　ヘラ切り
177	土師器	皿 口縁部～底部	SH133	12.3	9.1	2.9	風化気味だが回転ナデ	風化気味だが回転ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	良好	1mm以下の黒・赤褐色粒	赤切り　糸切圧痕
178	土師器	布恵土器 口縁部～側部中	C1⑤	(13.2)	－	－	ヘラ切り　ナデ　指頭痕	布目痕	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	良好	1mm以下の灰白色・透明粒	
179	土師器	布恵土器 口縁部～頸部	C1⑥	(13.8)	－	－	ヘラ切り　ナデ　指頭痕	布目痕	淡橙（7.5YR8/6）	淡橙（5YR6/6）	良好	9mm以下の橙色粒	粘土なめ痕
180	土師器	布恵土器 口縁部～頸部	C3⑨	(13.9)	－	－	ヘラ切り　ナデ	布目痕	にぶい橙（7.5YR7/4）	橙（7.5YR7/6）	良好	6mm以下の赤褐色粒　3mm以下の橙色粒	
181	土師器	布恵土器 口縁部～頸部	C1⑤	(13.2)	－	－	ヘラ切り　ナデ　指頭痕	布目痕	橙（5YR7/6）	橙（5YR7/6）	良好	3mm以下の明赤褐・褐灰色粒	
182	土師器	布恵土器 口縁部～頸部	C1⑥	(13.4)	－	－	ヘラ切り　ナデ　指頭痕	布目痕	淡橙（7.5YR8/6）	橙（5YR7/8）	良好	1mm～10mmの白・灰・黄色粒	
183	土師器	布恵土器 口縁部～頸部	SH176	－	－	－	ヘラ切り　ナデ	布目痕	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	良好	6mm以下の褐灰色粒	
184	土師器	布恵土器 口縁部～頸部	C1⑤	(14.0)	－	－	ヘラ切り　ナデ　指頭痕	布目痕	橙（5YR6/6）	橙（2.5YR6/6）	良好	2mm以下の黒褐・赤褐・灰白色粒	
185	土師器	布恵土器 口縁部～頸部	B1⑨	(13.1)	－	－	ヘラ切り　ナデ　指頭痕	布目痕	橙（5YR6/8）	橙（5YR6/6）	良好	2mm以下の褐灰色粒　1mm以下の赤褐色粒	
186	土師器	布恵土器 口縁部～頸部	C1⑤	(14.6)	－	－	ヘラ切り　ナデ　指頭痕	布目痕　指頭痕	橙（2.5YR6/6）	橙（5YR6/6）	良好	2mm以下の黒無・灰白色粒	
187	土師器	布恵土器 口縁部～底部	B1	－	－	－	ヘラ切り　ナデ	布目痕	橙（2.5YR6/6）	橙（5YR6/6）	良好	1mm以下の灰白色粒	
188	土師器	布恵土器 底部	H0	－	－	－	ナデ　指頭痕	布目痕	橙（5YR6/8）	橙（5YR6/8）	良好	3mm以下の明褐・灰白色粒	
189	土師器	布恵土器 底部	C1⑤	－	－	－	ナデ　指頭痕	布目痕	橙（5YR6/8）	橙（5YR6/8）	良好	6mm以下の橙色粒	

第７表　出土須恵器（古墳時代～古代）観察表①

遺物番号	種別	器種 器部位	出土場所	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様など 外面	内面	色調 外面	内面	焼成	胎土の特徴	備考
190	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	B1	(12.2)	－	－	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ	灰（N5/ ）	灰（N5/ ）	堅緻	1mm以下の灰白色粒	
191	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	C1⑥	(12.4)	－	－	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ	灰（N6/ ）	灰（N6/ ）	堅緻	3mm以下の灰白色粒	つまみ
192	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	B3⑨	(14.2)	－	－	ヘラ削り　回転ナデ　自然釉	回転ナデ	灰（N6/ ）	灰（N4/ ）	堅緻	3.5mm以下の灰白色粒	
193	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	SH253	(14.0)	－	3.4	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ	灰（N4/ ）	灰（N4/ ）	堅緻	1.5mm以下の灰白色粒	ヘラ記号
194	須恵器	坏蓋 天井部	SH192	－	－	－	ヘラ削り	回転ナデ　仕上げナデ	灰（N5/ ）	灰（N6/ ）	堅緻	3mm以下の灰白色粒	ヘラ記号
195	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	C1⑥	(13.5)	－	3.7	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ　仕上げナデ	灰（N4/0）	灰（N4/0）	堅緻	1mm以下の灰白色粒	ヘラ記号
196	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	SH348	(13.7)	－	－	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ　仕上げナデ	灰（N5/0）	灰（N5/0）	堅緻	2mm以下の灰白色粒	
197	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	C0⑨	(13.6)	－	4.0	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ　ヨコナデ	灰（N4/ ）	灰（N4/ ）	堅緻	2mm以下の白色粒	ヘラ記号
198	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	B1⑨	(13.1)	－	3.0	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ　自然釉	灰（N4/ ）	灰（N4/ ）	堅緻	粒良	ヘラ記号　宝珠つまみ
199	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	C0⑨	9.8	－	3.3	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ	灰（N4/ ）	灰（N4/ ）	堅緻	4mm以下の灰白色粒	宝珠つまみ
200	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	C0⑨	10.2	－	2.8	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ　仕上げナデ	灰（N6/ ）	灰（N6/ ）	堅緻	1mm以下の灰白色粒	宝珠つまみ
201	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	表土	(11.2)	－	2.8	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ　仕上げナデ	灰（N5/ ）	灰（N5/ ）	堅緻	2mm以下の灰白色粒	宝珠つまみ
202	須恵器	坏蓋 天井部～口縁部	表土	(10.0)	－	2.7	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ　仕上げナデ	灰（N5/ ）	灰（N5/ ）	堅緻	2mm以下の灰白色粒	宝珠つまみ
203	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	C23	11.3	－	3.2	ヘラ削り　回転ナデ　自然釉	回転ナデ	灰白（N7/ ）	灰白（N7/ ）	堅緻	1mm以下の白色粒	宝珠つまみ
204	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	C0⑨	(13.4)	－	26.5	ヘラ削り　回転ナデ	回転ナデ　仕上げナデ	灰（N5/ ）	灰（N5/ ）	堅緻	3mm以下の白色粒　1mm以下の黒色粒	宝珠つまみ

第８表　出土須恵器（古墳時代～古代）観察表②

遺物番号	種別	器種部位	出土場所	法量（cm）口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	焼成	胎土の特徴	備考
205	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	C0⑧	16.0	－	3.7	ヘラ削り 回転ナデ 自然釉	回転ナデ 仕上げナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰白（N8/）	堅緻	1mm以下の黒・灰白色粒	緻密珠つまみ
206	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	C0⑧	15.4	－	2.7	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	褐灰（N5/）	灰（N4/）	堅緻	2mm以下の黒・灰白色粒	須恵器の小片付着 緻密珠つまみ
207	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	B0	(15.8)	－	3.1	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰（N6/）	灰（N6/）	堅緻	1mm以下の白色粒	緻密珠つまみ
208	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	B1	13.9	－	3.9	ヘラ削り 回転ナデ 自然釉	回転ナデ 仕上げナデ 自然釉	灰（N4/）	灰（N5/）	堅緻	精良	緻密珠つまみ
209	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	B1	13.9	－	3.9	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰（N4/）	灰（N5/）	堅緻	精良	緻密珠つまみ
210	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	B1	15.8	－	2.3	回転ナデ 自然釉	回転ナデ 自然釉	灰（N6/）	灰（N6/）	堅緻	1mm以下の灰白色粒	緻密珠つまみ
211	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	C0⑧	16.4	－	1.9	回転ナデ	回転ナデ	灰白（N7/）	灰（N6/）	堅緻	2mm以下の黒色粒 4mm以下の白色粒	緻密珠つまみ
212	須恵器	坏蓋 天井部	B1①	－	－	－	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ	灰白（7.5Y7/1）	灰白（7.5Y7/1）	堅緻不安定（焼成？）	7mm以下の白色粒 2mm以下の黒色光沢粒	緻密珠つまみ
213	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	B0	16.0	－	2.3	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰白（N8/）	灰（N6/）	堅緻不安定（一部）	1mm以下の灰白色粒	緻密珠つまみ（歪）
214	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	C0⑤	(14.2)	－	2.3	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ	灰白（N7/）	灰（N7/）	堅緻不安定（焼成？）	2.5mm以下の褐灰色粒	緻密珠つまみ
215	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	H0⑩	(11.0)	－	－	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	明オリーブ灰（2.5GY7/1）	明オリーブ灰（2.5GY7/1）	堅緻	2mm以下の透明粒 1mm以下の白・黒色粒	ヘラ記号
216	須恵器	坏蓋 つまみ部～口縁部	SH401	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	灰白（5YR7/1）	灰白（5YR7/1）	堅緻不安定（焼成？）	1mm以下の灰色粒	
217	須恵器	坏身 1/4欠損	C1①	－	－	－	回転ナデ 自然釉	回転ナデ	灰（N6/）	灰（N6/）	堅緻	1mm以下の灰白色粒	
218	須恵器	坏身 1/4欠損	C1①	－	－	－	回転ナデ	回転ナデ	灰（N6/）	灰（N6/）	堅緻	1mm以下の黄灰粒	
219	須恵器	坏身 口縁部	C4⑤	－	－	－	回転ナデ 自然釉	回転ナデ	灰（N5/）	灰（N6/）	堅緻	3mm以下の黒色粒 4mm以下の白色粒	
220	須恵器	坏身 口縁部～底部	C1②	(13.2)	－	4.7	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰（N5/）	灰（N6/）	堅緻	1mm以下の灰白色粒	
221	須恵器	坏身 1/4欠損～底部	C0⑧	11.8	－	4.4	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ	青灰（5PB5/1）	青灰（5PB5/1）	堅緻	2mm以下の灰白色粒	
222	須恵器	坏身 口縁部～底部	表土	(13.4)	－	－	回転ナデ 自然釉	回転ナデ	灰（N4/）	灰（N5/）	堅緻	4mm大の灰色粒 1.5mm以下の黒色粒	須恵器の小片付着
223	須恵器	坏身 口縁部～底部	C1③	(11.7)	－	－	回転ナデ 厚い釉 自然釉	回転ナデ	灰（N4/）	灰（N6/）	堅緻	2mm以下の黒色粒	須恵器の小片付着
224	須恵器	坏身 口縁部～底部	C1⑤	(10.8)	－	3.6	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰白（2.5YR/1）	灰白（2.5YR/1）	堅緻不安定（焼成？）	2mm以下の赤色粒 1mm以下の黒・灰色粒	
225	須恵器	坏身 口縁部～底部	C0⑤	11.1	－	3.5	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	青灰（5PB5/1）	青灰（5PB5/1）	堅緻	2mm以下の灰白色粒	
226	須恵器	坏身 口縁部～底部	C0②	(9.0)	－	3.3	ヘラ削り 回転ナデ 自然釉	回転ナデ	暗青灰（5B4/1）	暗青灰（5B4/1）	堅緻	2.5mm以下の灰白粒	
227	須恵器	坏身 口縁部～底部	C0⑩	(10.8)	－	3.4	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰（10YR5/1～2/1）	暗青灰（10YR5/1～3/1）	堅緻	1mm以下の黒色粒	
228	須恵器	坏身 口縁部～底部	表土	(9.6)	(11.6)	3.1	ヘラ削り 回転ナデ 自然釉	回転ナデ	灰（N6/）	灰（N6/）	堅緻	1.5mm以下の褐灰・灰白色粒	
229	須恵器	坏身 口縁部～底部	C0⑤	9.4	－	3.3	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰（N5/）	灰（N5/）	堅緻	2mm以下の白色粒	ヘラ記号
230	須恵器	坏身 口縁部～底部	C0⑥	9.9	－	3.7	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰（N6/）	灰（N6/）	堅緻	2mm以下の灰白色粒 2mm以下の黒色粒	
231	須恵器	坏身 口縁部～底部	C0⑤	8.4	－	3.5	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰（N5/）	灰（N5/）	堅緻	5mm以下の灰白色粒	ヘラ記号
232	須恵器	坏身 口縁部～底部	C0②	(9.0)	－	3.3	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	褐灰（N3/）	褐灰（N3/）	堅緻	4mm以下の灰白色粒	ヘラ記号
233	須恵器	坏身 口縁部～底部	C0⑥	(8.8)	(4.5)	3.3	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ 仕上げナデ	灰（N6/）	灰（N5/）	堅緻	5mm以下の灰色粒 1mm以下の黒色粒	
234	須恵器	坏身 口縁部～底部	C0⑤	(9.9)	－	3.6	ヘラ削り 回転ナデ 板目痕	回転ナデ 仕上げナデ	灰（N4/）	灰（N6/）	堅緻	2mm以下の赤・灰白色粒	
235	須恵器	高坏 脚部～裾部	C1②	－	9.4	－	回転ナデ	回転ナデ	灰（N6/）	灰（N6/）	堅緻	4mm以下の灰色粒 2mm以下の黒色粒	四方透かし
236	須恵器	高坏 脚部～裾部	C1②	(14.8)	－	－	回転ナデ 自然釉	回転ナデ 仕上げナデ	オリーブ灰（5GY6/1）	灰（N6/）	堅緻	2mm以下の白黒粒 1mm以下の黒色粒	三方透かし
237	須恵器	高坏 脚部～裾部	C1③	－	－	－	回転ナデ 櫛状波状文 2条の沈線 自然釉	回転ナデ	灰（5Y4/1）	灰オリーブ（5Y5/2）	堅緻	2mm以下の灰白色粒・暗灰色粒	三方透かし
238	須恵器	壺 口縁部	SH207	－	－	－	櫛状波状文 沈線	回転ナデ 自然釉	灰（N4/）	灰（N6/）	堅緻	2mm以下の灰白色粒	
239	須恵器	壺 口縁部	SE2	(35.2)	－	－	回転ナデ 櫛状波状文 横方向・斜位の草状施文	仕上げナデ	灰（N6/）	灰（N6/）	堅緻	1mm以下の黒・灰白色粒	
240	須恵器	壺 口縁部	C1③	－	－	－	回転ナデ 自然釉	回転ナデ 自然釉	赤黒（10GY2/1）	赤黒（10GY2/1）	堅緻	1mm以下の白色粒	
241	須恵器	壺 口縁部～頸部	表土	22.0	－	－	回転ナデ 自然釉 平行タタキ 格子目タタキ の後カキ目	回転ナデ 自然釉 同心円当て具痕	灰（N6/）	灰（N6/）	堅緻	1mm以下の灰白・褐灰色粒	
242	須恵器	壺 口縁部～頸部	C0⑧	(21.6)	－	－	回転ナデ 平行タタキの後カキ目 自然釉 仕上げナデ	回転ナデ 自然釉 同心円当て具痕	灰（N6/）	灰（N6/）	堅緻	2mm以下の灰白色粒	
243	須恵器	壺 口縁部～頸部	C1②	17.3	－	－	回転ナデ 平行タタキの後カキ目	回転ナデ 同心円当て具痕	灰（7.5YS/）	灰（7.5YS/）	堅緻	2.5mm以下の灰白色粒	ヘラ記号
244	須恵器	壺 口縁部～頸部	B1	(21.1)	－	－	タタキ後刻線ナデ 自然釉 平行タタキ	回転ナデ 同心円当て具痕	灰白（N7/）	灰白（N7/）	堅緻	3mm以下の灰色粒	
245	須恵器	壺 口縁部～頸部	H1③	(23.3)	－	－	回転ナデ 平行タタキ 自然釉	回転ナデ 同心円当て具痕	灰（N5/）	灰（N5/）	堅緻	2mm以下の灰白色粒	
246	須恵器	壺 口縁部	B1	－	－	－	回転ナデ 格子目タタキ	回転ナデ	黒紫（2.5Y3/1）	暗灰黄（2.5Y4/2）	堅緻	1mm以下の白・黒色粒	
247	須恵器	壺 頸部	C3	－	－	－	格子目タタキ	平行当て具痕	褐灰（7.5YR4/1）	灰（10YR4/1）	堅緻	1mm以下の暗黒色粒	
248	須恵器	甕 天井部～口縁部	C3①	(10.6)	－	3.2	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ	灰白（N6/）	灰白（N6/）	堅緻	3mm以下の灰白色粒	
249	須恵器	甕 頸部～肩部	C2	－	－	－	回転ナデ 自然釉	回転ナデ 自然釉	灰白（10Y7/）	灰（N6/）	堅緻	1mm以下の灰白色粒	
250	須恵器	甕 頸部～肩部	表土	－	－	－	回転ナデ 自然釉	回転ナデ ヘラ削り 自然釉	灰白（5Y7/1）	灰オリーブ（5Y6/2）	堅緻	2mm以下の黒・茶色粒	
251	須恵器	甕 頸部～肩部	C1②	－	－	－	回転ナデ ヘラ削り 自然釉	回転ナデ 自然釉	灰（N6/）	灰（N5/）	堅緻	1mm以下の灰白・褐灰色粒	

第９表　出土須恵器（古墳時代～古代）観察表③

遺物番号	種別	器種 部位	出土場所	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	焼成	胎土の特徴	備考
252	須恵器	壺 胴部～底部	C3⑥	－	15.6	－	格子目タタキ 回転ナデ	回転ナデ	灰 (N6/)	灰白 (7/N7/1)	やや良 やや不完全	1mm以下の褐灰色粒	
253	須恵器	壺 胴部～底部	SE2	－	11.7	－	回転ナデ 自然釉	回転ナデ	灰白 (10YR7/1)	褐灰 (10YR5/1)	堅緻	1mm以下の褐灰色粒	
254	須恵器	小型壺 胴部～底部	C3	－	3.7	－	回転ナデ	回転ナデ	灰 (N6/)	灰 (N6/)	堅緻	精良	赤切底
255	須恵器	鉢 口縁部	C1⑤	－	－	－	回転ナデ 自然釉 櫛描波状文	回転ナデ	緑オリーブ灰 (2.5GY3/1)	緑オリーブ灰 (2.5GY3/1)	堅緻	1mm以下の灰白色粒	
256	須恵器	鉢 頸部～底部	C3⑤	－	－	－	回転ナデ 自然釉 明黄文 波・円釉	不明	灰白 (N7/)	灰白 (N7/)	堅緻	2mm以下の灰白色粒	杢孔
257	須恵器	甲類 頸部～体部	C0⑥	－	－	－	回転ナデ カキ目 自然釉	回転ナデ	褐灰 (N3/)	褐灰 (N3/)	堅緻	3mm以下の褐灰色粒	
258	須恵器	横瓶 ?神部～頸部	C0⑥	(7.9)	－	－	回転ナデ 自然釉	回転ナデ 自然釉	黒褐 (7.5YR3/1)	褐灰 (N5/)	堅緻	3mm以下の孔白粒	鎮座器の小片付着
259	須恵器	器臺 体部	C2	－	－	－	カキ目 自然釉	回転ナデ	灰 (N4/)	灰 (N5/)	堅緻	2.5mm以下の灰白色粒	
260	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0⑫	11.2	6.2	(4.5)	回転ナデ ヘラ起こしナデ 自然釉	回転ナデ 自然釉	黒 (N2/)	黒 (N2/)	堅緻	1mm以下の灰茶・黒灰色粒	
261	須恵器	高台付坏 神部～底部	C1⑥	11.9	7.7	(4.4)	回転ナデ ヘラ起こしナデ 自然釉	回転ナデ 自然釉	黒 (N2/)	灰 (N4/)	堅緻	2mm以下の灰色粒	
262	須恵器	高台付坏 神部～底部	B1⑫	(12.7)	(9.6)	4.3	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ 仕上げナデ	灰 (N6/)	灰 (N6/)	堅緻	精良	ヘラ記号
263	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0⑫	(13.4)	(10.0)	4.5	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ 仕上げナデ	褐灰 (N3/)	灰 (N4/)	堅緻	精良	
264	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0⑨	14.5	8.3	(4.9)	回転ナデ ヘラ起こし 自然釉	回転ナデ	灰 (N4/)	灰 (N4/)	堅緻	2mm以下の白色粒	
265	須恵器	高台付坏 神部～底部	C1	(12.3)	(7.6)	4.1	回転ナデ ヘラ起こし 自然釉	回転ナデ 仕上げナデ	灰 (N4/)	灰 (N4/)	堅緻	精良	
266	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0⑥	(11.1)	(7.4)	3.7	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ 仕上げナデ	灰 (N5/)	灰 (N5/)	堅緻	3mm以下の白色光沢粒 5mm以下の白色粒	
267	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0⑫	(9.3)	(5.7)	5.5	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ	にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	軟成不完全 (生焼?)	精良	ヘラ記号
268	須恵器	高台付坏 胴部～底部	B1⑫	－	－	(7.0)	回転ナデ ヘラ起こし	風化著しい為調整不明	灰白 (2.5Y7/1)	灰白 (2.5Y8/2)	軟成不完全 (生焼?)	精良	風化
269	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0⑫	(10.2)	7.9	4.2	回転ナデ ヘラ起こし 自然釉	回転ナデ 仕上げナデ	灰 (N6/)	灰 (N5/)	堅緻	3mm以下の白粒	
270	須恵器	高台付坏 神部～底部	表土	(12.0)	(8.0)	4.4	回転ナデ ヘラ起こし 自然釉	回転ナデ 仕上げナデ 一部重ね焼きの痕	灰 (N5/)	灰 (N5/)	堅緻	3mm以下黒灰白色粒	
271	須恵器	高台付坏 神部～底部	表土	(14.0)	(9.4)	4.8	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ 仕上げナデ	灰 (N5/)	灰 (N6/)	堅緻	精良	
272	須恵器	高台付坏 神部～底部	C3	(12.4)	10.0	4.7	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ 仕上げナデ	暗青灰 (10BG4/1)	青灰 (10BG5/1)	堅緻	4mm以下の暗灰色粒	
273	須恵器	高台付坏 神部～底部	表土	(12.9)	(9.6)	4.5	回転ナデ ヘラ起こし 自然釉	回転ナデ 仕上げナデ	暗青灰 (10BG4/1)	灰 (N5/)	堅緻	精良	
274	須恵器	高台付坏 神部～底部	C1⑥	(12.3)	(10.8)	4.1	回転ナデ ヘラ起こし 自然釉	回転ナデ 仕上げナデ	灰白 (7.5Y7/1)	灰白 (N7/)	堅緻	4mm以下の茶褐色粒	鎮座器の小片付着
275	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0⑥	(15.4)	(12.0)	4.2	回転ナデ回転ヘラ起こし	回転ナデ 仕上げナデ	灰 (N5/)	灰 (N6/)	堅緻	6mm以下の灰白色粒	
276	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0⑥	(18.2)	(12.1)	7.1	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ	灰 (N6/)	灰 (10Y6/1)	堅緻	1mm以下の白斑・灰色粒	
277	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0④	(15.5)	(10.0)	4.9	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ 仕上げナデ 自然釉	灰 (N5/)	灰 (N6/)	堅緻	1mm以下の灰色粒	
278	須恵器	高台付坏 神部～底部	B0	(13.6)	10.5	4.9	回転ナデ ヘラ起こし 自然釉	回転ナデ 仕上げナデ	灰 (N5/)	灰 (N5/)	堅緻	1mm以下の白粒	
279	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0⑨	(17.0)	－	－	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ 仕上げナデ	灰白 (N7/)	灰白 (N7/)	やや軟	2mm以下の灰色・白灰色粒	風化
280	須恵器	高台付坏 神部～底部	C0⑨	(11.5)	7.4	4.4	回転ナデ	回転ナデ	灰 (N6/)	灰 (N6/)	堅緻	5mm以下の黒色粒 2mm以下の白色粒	
281	須恵器	坏 胴部～底部	B1	－	6.6	－	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ	灰 (N5/1)	灰 (N6/)	堅緻	4mm以下の灰白色粒	
282	須恵器	坏 神部～底部	B1	(13.2)	7.3	4.3	回転ナデ ヘラ起こし 仕上げナデ	回転ナデ ワラ焼き痕	灰白 (10YR7/1)	灰白 (10Y7/1)	やや軟	1mm以下の黒・赤茶・灰褐色粒	
283	須恵器	坏 神部～底部	B1⑫	(12.7)	7.5	4.1	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ ワラ焼き痕	灰白 (5Y7/1)	灰白 (5Y7/1)	軟成不完全 (生焼?)	精良	
284	須恵器	坏 胴部～底部	B3⑫	－	6.4	－	回転ナデ ヘラ起こし ワラ焼き痕	回転ナデ ワラ焼き痕	灰 (7.5Y6/1)	灰 (7.5Y6/1)	軟成不完全 (やや生焼?)	精良	
285	須恵器	坏 神部～底部	B1	12.8	7.5	3.8	回転ナデ ヘラ起こし 粗ナデによる波打ち方の強い	回転ナデ	灰白 (5Y7/1)	灰 (5Y6/1)	軟成不完全 (生焼?)	精良	
286	須恵器	坏 神部～底部	C0⑥	(12.2)	(8.2)	(4.7)	回転ナデ ヘラ起こし	回転ナデ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (2.5YR8/2)	軟成不完全 (生焼?)	1mm以下の黒・灰白色粒	
287	須恵器	甕 底部	C4⑥	－	－	－	回転ナデ 自然釉	回転ナデ 自然釉	灰白 (N7/)	灰白 (N7/)	堅緻	7.5mm以下の灰白色粒	斧轟付着
288	須恵器	長頸壺 底部付近	C3⑦	－	－	－	回転ナデ 仕上げナデ	回転ナデ 自然釉	灰 (N4/)	灰 (10Y6/1)	堅緻	2mm以下の灰白色粒	鎮座器小片付着

第10表　出土陶磁器（古代）観察表

遺物番号	種別	器種 部位	出土場所	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	胎土調	釉調 外面	内面	産地	備考
289	青磁	碗	A2	－	(4.9)	－	施釉	施釉	灰白 (N7/)	灰 (7.5Y6/1)	灰 (7/5Y6/1)	龍泉窯系	
290	緑釉	皿	DS①	－	(5.9)	－	施釉 一部重ね焼	施釉	灰白 (N7/)	灰 (7.5Y5/1)	灰 (7.5Y5/1)	尾西	
291	緑釉	皿	ES①	－	(6.9)	－	施釉	施釉	灰 (10Y5/1)	オリーブ灰 (10Y5/2)	オリーブ灰 (10Y5/2)	尾西	
292	緑釉	碗	木杭-4 (C3⑥)	(12.9)	(6.8)	4.2	施釉	施釉	灰 (N6/0)	灰オリーブ (7.5Y5/2)	灰オリーブ (7.5Y5/2)	尾西	

第３節　中世の遺構と遺物

１　掘立柱建物跡（ＳＢ）

遺物包含層下部の黄褐色土層面（第Ⅷ層）で300基程のピット群を検出した。そのうち調査区西部南側で掘立柱建物跡を４棟検出した。掘立柱建物跡同士及び他遺構との切り合い関係はない。各建物跡の方位は、ほぼ南北軸でいずれも座標北方向から２～７°の振れを有する。柱痕や根石、火所に伴う炭化物、焼土等は検出できなかった。柱穴から出土した遺物は小片で図化していないが中世土師器の特徴をもつことから、建物跡の構築時期は同時期相当と考えられる。柱穴の埋土はいずれも黒褐色土である。遺構の規模等詳細については下表（第11表）にまとめた。

ＳＢ１（第23図）

調査区西部の微高地西端に位置する。本遺跡で検出された建物跡の中では最も規模が大きい総柱建物跡で、主軸はＮ３°Ｗである。柱穴の掘形は円、楕円を主とするが、柱穴が幾重にも切り合っているものがあり、立て替えが頻繁に行われた可能性がある。柱穴の深さは検出面で32㎝～52㎝である。

ＳＢ２（第24図）

ＳＢ１を少し小型にした総柱建物跡で同遺構の南東隣に位置する。主軸はＮ７°Ｗで、床面の平面プランは桁がやや東方向に傾く平行四辺形を呈する。柱穴の掘形はＳＨ１～ＳＨ12までよく似ており柱間が正確に設置されている。柱穴の深さは検出面で30㎝～50㎝である。

ＳＢ３（第25図）

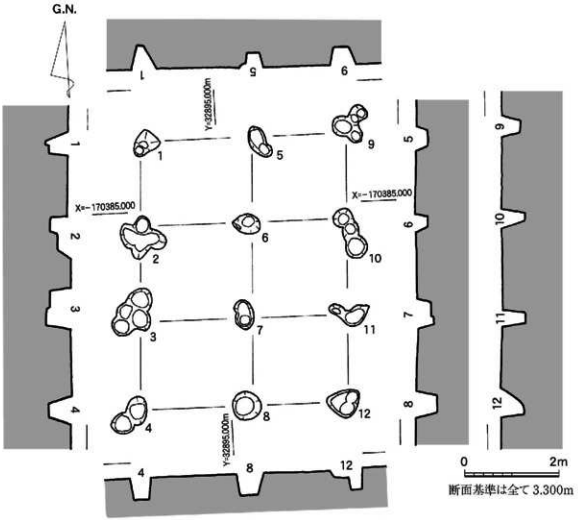
微高地の先端付近に建てられたＳＢ１・２の背後に位置し、調査区外にかかる南北軸の側柱建物跡と考えられる。主軸はＮ７°Ｅである。柱穴の掘形は楕円を主とするが、柱穴が幾重にも切り合っているものがあり、立て替えの可能性がある。桁行の柱間は1.82m～2.32m、梁行の柱間は1.76m～1.78mである。

ＳＢ４（第26図）

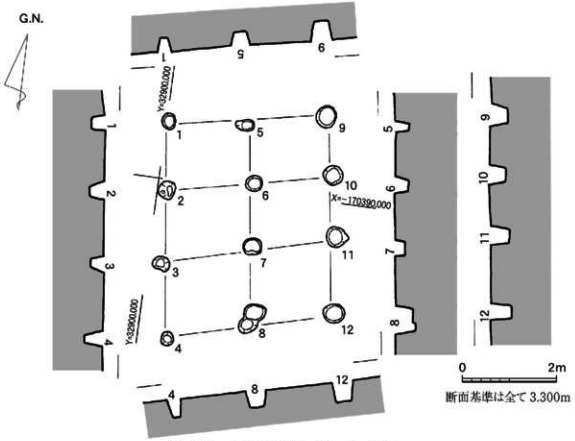
ＳＢ３の東隣に位置し本遺跡で検出した最も小型の建物跡である。調査区外にかかる南北軸の側柱建物跡と考えられる。主軸はＮ２°Ｅで、掘形は楕円を主とする。桁行の柱間は1.71m～2.08m、梁行の柱間は1.24m～1.28mである。

第11表　掘立柱建物跡一覧表

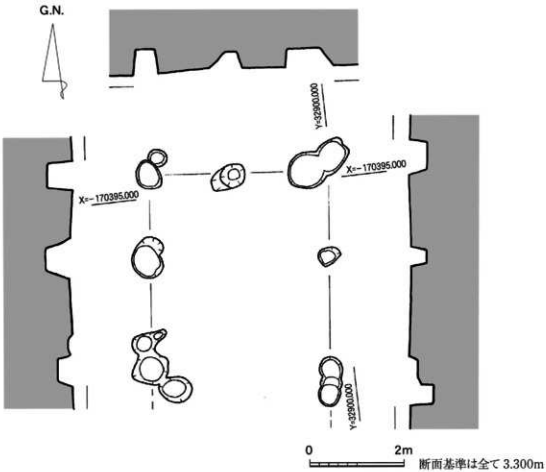
建物番号	位　置	主軸	建物の種別	規　模	桁　行	梁　行	長幅比	床面積
ＳＢ１	Ｂ－1グリッド	南北	総柱建物	３間×２間	5.63～5.69m	4.37～4.43m	1.3	24.9㎡
ＳＢ２	Ｂ･Ｃ－2グリッド	南北	総柱建物	３間×２間	4.19～4.53m	3.49～3.56m	1.2	15.4㎡
ＳＢ３	Ｃ－1･2グリッド	南北	側柱建物	(2+α)間×２間	4.17m以上	3.54m(北側)	－	－
ＳＢ４	Ｃ･Ｄ－2グリッド	南北	側柱建物	(2+α)間×２間	3.76m以上	2.52m(北側)	－	－



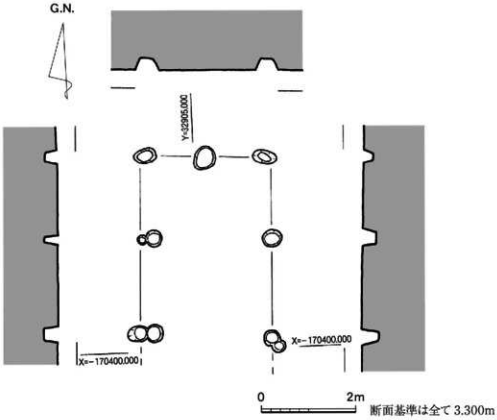
第23図　ＳＢ１実測図（Ｓ＝１／80）



第24図　ＳＢ２実測図（Ｓ＝１／80）



第25図　ＳＢ３実測図（Ｓ＝１／80）

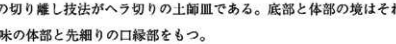


第26図　ＳＢ４実測図（Ｓ＝１／80）

2　中世の遺物

(1) 土師器（第27図）

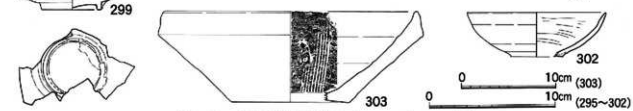
293、294は、いずれも底部の切り離し技法がヘラ切りの土師皿である。底部と体部の境はそれほど明確ではなく肉厚で、内湾気味の体部と先細りの口縁部をもつ。



第27図　中世土師皿実測図（S＝1／3）

(2) 陶磁器（第28図）

295～301は中国産の貿易陶磁器で、そのうち295～298は龍泉窯系青磁、299、300は華南系白磁である。295は外面に鎬蓮弁文、296は見込みに印花文が施される。297は外面の体部下位に砂目が付着する。重ね焼きの目跡かも。298は見込みに蛇の目釉剥ぎが残る腰折れ皿である。299、300は13世紀の白磁碗である。301は口禿碗である。302は瓦器碗である。内面に暗文が施され、外面底部には形骸化した高台が薄く貼り付けられる。303は備前系の擂鉢で内面に9条1単位の擂目が認められる。



第28図　中世陶磁器実測図（S＝1／4,　1／3）

第12表　出土土師器（中世）観察表

遺物番号	種別	器種 部位	出土位置	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	構成	胎土の特徴	備考
293	土師器	土師皿 口縁部～底部	C3	6.7	4.4	1.7	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	良好	1mm以下の粒・灰色粒	ヘラ切り
294	土師器	土師皿 口縁部～底部	C3	6.3	4.7	1.8	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	良好	1mm以下の赤褐色粒	付着物？　ヘラ切り　底円圧痕

第13表　出土陶磁器・瓦器（中世）観察表

遺物番号	出土位置	種別	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	胎土調	色調 外面	内面	産地	備考
295	表土	青磁	碗	－	－	－	線彫　鎬蓮弁文	綠釉	灰白 (7.5Y7/1)	オリーブ灰 (2.5GY5/1)	オリーブ灰 (2.5GY5/1)	龍泉窯系	
296	C3	青磁	碗	－	(5.2)	－	施釉　貫入	施釉　印花	灰白 (10Y7/1)	明緑灰 (10GY7/1)	明緑灰 (10GY7/1)	龍泉窯系	
297	SH1	青磁	碗	(16.2)	－	－	線彫　重ね焼き目跡？ 砂目	綠釉	灰 (N5/)	オリーブ灰 (10Y4/2)	オリーブ灰 (10Y4/2)	龍泉窯系	
298	C0	青磁	碗	(12.1)	(6.0)	3.8	施釉　貫入　ヘラ切り 蛇ノ目高台？	施釉　釉剥ぎ	灰白 (10YR8/2)	明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	明緑色 (7.5GY7/2)	龍泉窯系	腰折れ皿
299	B3⑨	白磁	碗	－	4.7	－	施釉　貫入（釉のたれが一部みられる）	施釉	浅黄 (2.5Y7/4)	明オリーブ灰 (5GY7/1)	明オリーブ灰 (5GY7/1)	華南系	
300	C0⑩	白磁	碗	－	－	－	施釉	施釉	灰 (5Y6/1)	灰オリーブ (5Y6/2)	灰オリーブ (5Y6/2)	華南系	
301	C0⑩	白磁	碗	－	－	－	施釉　口禿	施釉	灰白 (N7/)	灰白 (7.5Y7/1)	灰白 (7.5Y7/1)	中国	
302	C2⑩	瓦器	碗	(10.9)	(4.1)	3.5	回転ナデ　指頭痕 高台付　ナデ	回転ナデ　暗文	－	灰 (N5/)	灰 (N6/)	灰？	
303	C4⑩	陶器	擂鉢	(26.4)	(12.4)	9.6	ナデ　横方向のナデ　自然釉	横方向のナデ　擂目による9条の擂目	灰赤 (2.5YR4/2)	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	にぶい赤褐 (2.5YR4/3)	備前系	部分的に炭分？付着

第４節　近世・近代の遺構と遺物

１　杭列遺構

調査区中央部付近で検出された４列の杭列遺構は、ＳＥ１・２及び旧河川跡に付設された遺構と考えられる。しかし、それぞれの杭列遺構付近の出土遺物は流れ込みの様相を呈しており、遺構の構築時期の特定が困難であった。そこで、放射性炭素^{14}C年代測定（ＡＭＳ法）を行ったところ、いずれも近世以降の遺物であることが判明した。

１号杭列遺構（第29図）

Ｂ・Ｃ－３グリッドで検出した。旧河川跡に直交するように付設されており２列構造である。流路の上方に５本、下方に４本検出したが２列の木杭は相対するよう打ち込まれていた。検出面は黄灰色土である。また、④層のオリーブ灰色土はＳＣ１やＳＢ１～４が検出された硬化面であるが、木杭の先端がそこまで達していないものもあることから、④層上に堆積した層に対して打ち込まれたものと考えられる。木杭ａと木杭ｂ・ｃ付近に横倒しになった木片が確認された。特に木杭ｂ・ｃ付近の木片は木杭ｃの流路上方にあり、堰の横木の役割を果たしていた可能性がある。**遺物（第32図）**304の樹種はスギ（スギ科）である。半截した樹木をさらに分割して加工してある。上部は一部欠損しているが現存長よりそれほど長くはなかったと思われる。また、最大幅から半截前の樹木の径は19㎝以上と推定される。杭は先端に向けて鋭く尖らせているが、加工面のうち最大のものの長軸が20㎝程あることや一部刃が入り込んだ痕跡があることから、重量のある鋭い刃で加工したことが分かる。

２号杭列遺構（第30図）

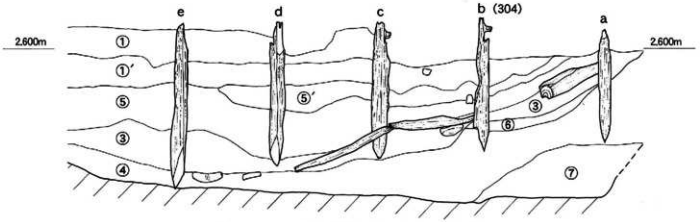
Ｃ－３グリッドで検出した。１号杭列遺構の旧河川下流に位置する一列構造の遺構で、14本の木杭が地面に対してほぼ垂直に打ち込まれていた。木杭間は１号杭列状遺構に比べて狭くなるが、特にｃ・ｄ間で最大に開く。検出面や検出状況は１号杭列遺構とほぼ同じであるが、やはり硬化面である④層上に堆積した層に対して打ち込まれたものと考えられる。横木や水溜用の樹皮等は確認できなかった。**遺物（第32図）**305の樹種はスギ（スギ科）である。半截した材をさらに半截した１／４角の杭である。上部は欠損しているが、中位程から上部に向けて細くなることから現存長よりそれほど長くはならないと思われる。杭の先端の加工痕は304に比べ短くなるが、加工の仕方は非常に似ている。

３号杭列遺構（第31図）

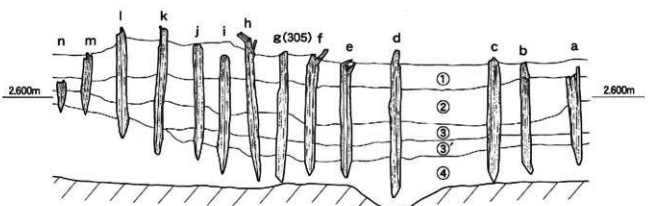
Ｃ－３・４グリッドで検出した。１列構造の遺構でＳＥ２の流路に対して垂直方向に付設されている。木杭は９本現存していたが、ＳＥ２の南側は検出できなかったことから完全にＳＥ２を堰き止めるものではないかもしれない。木杭間はほぼ２号杭列遺構と同じである。検出面は②層であるが、硬化面である④層に対して現存する木杭の１／３以上が打ち込まれている。横木や水溜用の樹皮等は確認できなかった。**遺物（第32図）**306は樹種がスギ（スギ科）の１／４角の杭である。上部は著しく欠損しているが他の木杭の長さが同程度であることや上部端に打たれたような痕跡が残ることから、当時のものとほぼ現存長は変わらないものと推察される。杭の先端は全面から加工され鋭くなっている。

４号杭列遺構（第34図）

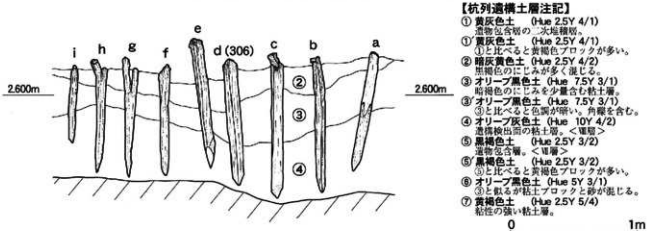
１列構造の遺構でＳＥ１の流路に平行して付設されていた。ＳＥ１の北側上面から20㎝程離して打ち込まれていたが南側には検出できなかった。また、Ｂ－３グリッドでのみ検出した。1.7m程の幅で柵列状に並ぶ木杭は５本遺存していた。**遺物（第32図）** 307の樹種はシキミ（モクレン科）で芯持ち材の先端を尖らせており、本体はほぼ全面にわたって本来の樹皮を残している。上部は欠損している。先端部は杭状に加工しているが、中心部から放射状円錐形に整えるのではなく、１／２面を手斧状の工具で削り取っている。手斧痕の最大幅は2.7㎝程で、長さは2.5～4.2㎝程ある。



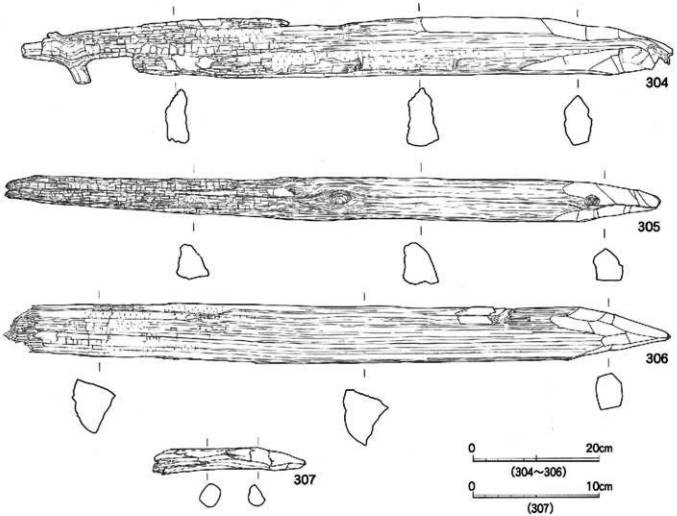
第29図　１号杭列遺構実測図（Ｓ＝１／30）



第30図　２号杭列遺構実測図（Ｓ＝１／30）



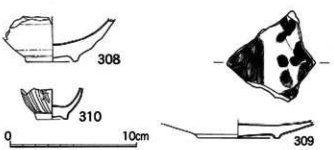
第31図　３号杭列遺構実測図（Ｓ＝１／30）



第32図　木杭実測図（S＝1／5，1／6）

2　近世の遺物（第33図）

308は唐津焼の陶器碗である。灰釉が施され外面は腰部以下が露胎となる。309は伊万里焼の染付皿である。内面に描かれているのは唐人図か。310は伊万里焼の小杯である。外面に鎬彫り福寿文の染付を施す。



第33図　近世陶磁器実測図（S＝1／3）

第14表　出土木杭（近世～近代）観察表

遺物番号	出土位置			用途	樹種	現存での法量（cm）			加工法	
						最大長	最大幅	重量	加工部の長さ	加工面数
304	B・C－3グリッド	1号板列遺構	南から2本目	堰か	スギ（スギ科）	102.8	9.5	831.8	24.3	12
305	C－3グリッド	2号板列遺構	東から7本目	堰か	スギ（スギ科）	103.2	6.7	778.2	18.9	12
306	C－3グリッド	3号板列遺構	南から4本目	堰か	スギ（スギ科）	105.8	9.1	1118.7	19.0	12
307	B－3グリッド	4号板列遺構	東から2本目	柴列	シキミ（モクレン科）	20.1	3.8	49.8	12.5	5

第15表　出土陶磁器（近世）観察表

遺物番号	出土位置	種別	器種	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		胎土調	色調		産地	備考
				口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面		
308	B3③	陶器	碗	－	(4.1)	－	灰釉 露胎 回転ナデ　ヘラ削り	灰釉	に近い赤褐 (2.5YR5/4)	灰 (7.5Y6/1)	灰 (7.5Y6/1)	肥前	
309	C4③	染付	皿	－	(6.4)	－	露胎　施釉	施釉　唐人図か	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (5GY8/1)	灰白 (5GY8/1)	伊万里	
310	木杭-4 (C3③)	陶器	小坏	－	2.5	－	施釉	施釉	灰白 (N8/)	明緑灰 (10GY7/1)	明緑灰 (10GY7/1)	伊万里	

第５節　時期不明の遺構と遺物

１　溝状遺構（ＳＥ）

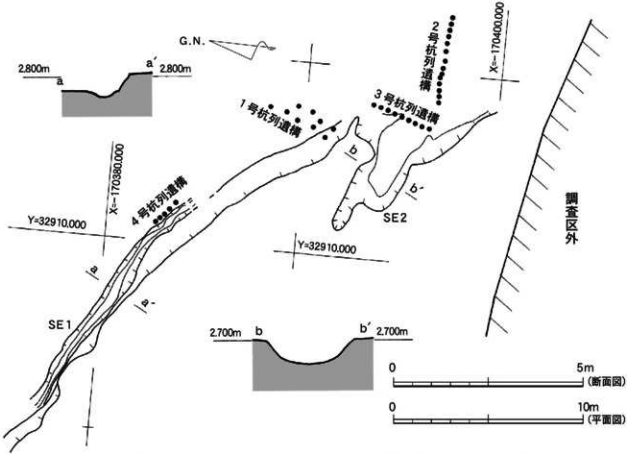
調査区中央部付近に、溝状遺構を２条検出した。それぞれに付設された杭列は^{14}C年代測定により近世から近代の時期特定が得られているが、遺物は流れ込みの様相を呈しており、遺構の構築時期の特定は困難であることからここでは時期不明の遺構として取り扱う。

ＳＥ１（第34図）

ＳＥ１は検出面で最大幅1.1m、深さ20㎝、長さ13mを測る溝で、調査区西部の微高地と平行して直線的に延びる。発掘調査終了直前に検出されたため全容を明らかにすることはできなかったが、調査区西端でも確認できたので、さらに6.5mほど規模を大きくして調査区外へと延びていく。埋土は中近世の遺物包含層の二次堆積と考えられる灰色土（Hue 5Y 5／1）である。遺構の南東端、北側には溝状遺構に平行して近世に構築された杭列遺構が並ぶことから、本遺構はこれ以前に構築されたものである。

ＳＥ２（第34図）

ＳＥ２は検出面で最大幅4.5m、深さ60㎝、長さ6.5mを測る溝で、調査区西部の微高地東端から低地に向かって延びる。埋土はオリーブ黒色の粘土でレンズ状堆積をしていた。また、遺構内からかなり時期差のある遺物が出土しており、構築時期の特定は困難であるが、流路の出口方向に近世から近代の間に構築された杭列遺構が並ぶことから、本遺構はこれ以前に構築されたものである。



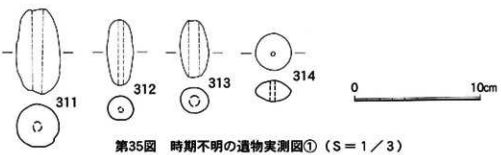
第34図　ＳＥ１・ＳＥ２実測図(平面図：Ｓ＝１／200、断面図：Ｓ＝１／100)

2　時期不明の遺物

本遺構では、これまで述べてきた遺物の他に、包含層等から時期を特定しかねる遺物が出土している。図化した遺物の器種ごとの内訳は、土錘３点、紡錘車１点である。また、石器では石斧１点、磨製石器５点、スクレーパー１点、砥石10点、敲石・凹石11点、石錘１点である。石斧は縄文時代に属するものと思われるが、その他のものは時期の特定できる遺構等から出土したものではないこと、土錘や紡錘車とともに礫石器等は継続的に存続するものがあることから、時期を特定できないものとして一括してここで取り扱う。

(1) 土錘・土製紡錘車（第35図）

311～313は土錘である。いずれも土師質で筒状をしている。311は重量が70.1ｇと大型のもので、胴部中央部に最大径をもつがそれほどふくらまない。312、313は中型のもので312は細身だが313はやや肉厚となる。314は紡錘車である。算盤玉状で中央に１孔、軸を通すための孔を施している。



第35図　時期不明の遺物実測図①（Ｓ＝１／３）

(2) 石器

石斧（第36図）

315は打製石斧の刃部もしくは基部か。頁岩ホルンフェルスを利用石材とし、著しく風化しているが自然面を残した剥片を素材にして加工を施している。

磨製石器（第36図）

利用石材はすべて砂岩である。316～318は細長い棒状の側面を縦長に磨っている。それぞれに磨った面の数により断面の形が変わるが先端はさらに磨られて尖る。319は方柱石材の両端を両刃に仕上げている。320は扁平な石材の一端のみを両刃に仕上げている。

スクレーパー（第36図）

321は、横長の頁岩剥片を素材とし、縁周に加工を施して弧状の刃部を形成するものである。

砥石（第36図）

322～327は扁平な礫を利用しており、１面以上に使用痕が確認される。328は方柱状の陶石を全面にわたって使用している。329～331は有溝砥石である。断面がＶまたはＵ字状の溝を有する。

敲石・凹石（第37図）

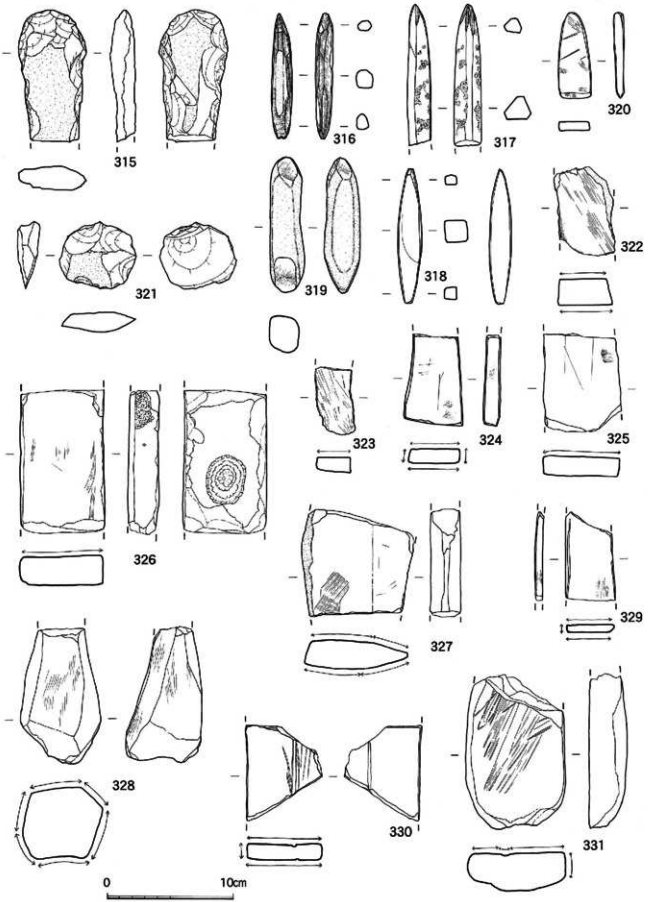
敲石・凹石Ⅰ類：敲打痕をもつもの（332～336）

敲石・凹石Ⅱ類：敲打痕と敲打による窪みをもつもの（337～341）

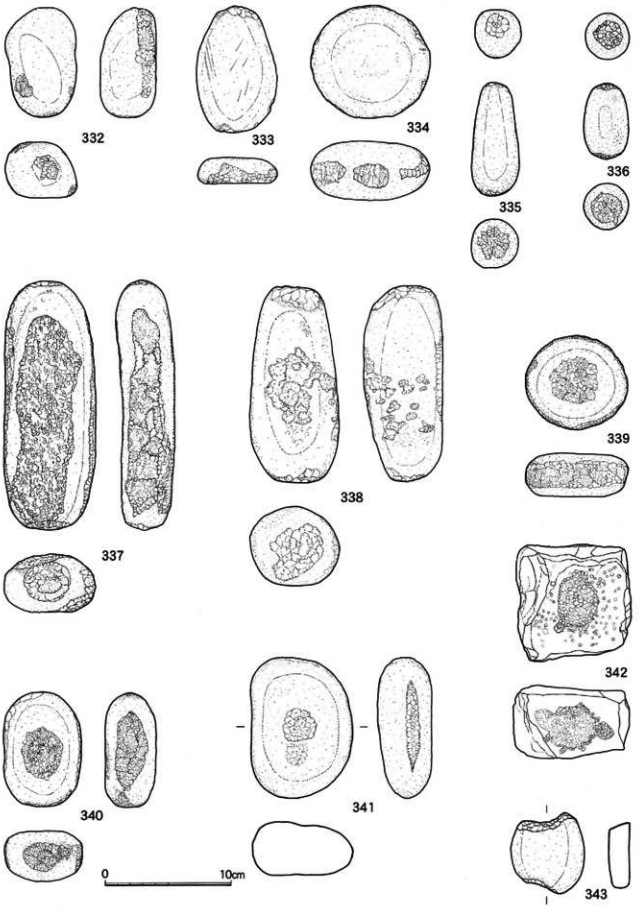
敲石・凹石Ⅲ類：敲打による窪みをもつもの（342）

石錘（第37図）

343は扁平な礫の長軸を打撃による剥離で抉りをつくり出した、いわゆる礫石錘である。



第36図　時期不明の遺物実測図②（S＝1／3）



第37図　時期不明の遺物実測図③（S＝1／3）

第16表　出土土錘・紡錘車計測表

遺物番号	出土場所	最大長（cm）	最大幅（径：cm）	最大厚（cm）	穿孔径（cm）	重量（g）
311	B1	6.8	3.5	3.4	0.8	70.1
312	SH1	5.2	2.1	2.0	0.5	21.5
313	C3⑪	4.6	2.3	2.0	0.9	18.6
314	C2⑦	2.9	2.9	1.7	0.3	12.1

第17表　出土石器計測表

遺物番号	種別	出土地点	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材	備考
315	打製石斧	B2	10.1	5.4	2.0	143.6	頁岩ホルンフェルス	風化
316	磨製石器	C0⑮	9.9	1.5	1.5	32.8	砂岩	
317	磨製石器	C0⑯	(11.2)	2.2	1.9	61.1	砂岩	
318	磨製石器	B2	10.7	1.8	1.8	53.1	砂岩	
319	磨製石器	C3⑩	10.7	2.8	3.0	125.7	砂岩	
320	磨製石器	C2⑬	6.9	2.7	0.9	23.0	砂岩	
321	スクレーパー	C3⑦	5.4	5.9	1.6	56.9	頁岩	風化
322	砥石	C3⑪	(7.1)	(4.8)	2.1	130.8	頁岩	
323	砥石	C2⑥	(5.4)	(3.2)	1.3	28.5	緑色頁岩	
324	砥石	SH47	(7.2)	4.7	1.3	78.0	砂岩	
325	砥石	C3⑥	(7.8)	6.2	1.6	144.9	砂岩	
326	砥石	B1	(11.4)	6.8	2.5	406.9	砂岩	
327	砥石	C3⑦	(8.6)	8.9	2.3	263.7	砂岩	
328	砥石	B17	10.8	6.4	5.6	452.0	陶岩（流紋岩質凝灰岩）	
329	砥石	C47	(7.1)	4.0	0.6	33.9	砂岩	
330	砥石	C3	(7.6)	(6.1)	1.4	88.5	砂岩	
331	砥石	SE2	(12.3)	7.9	3.1	416.5	泥岩	
332	敲石	B3⑧	8.8	5.8	4.5	339.1	砂岩	
333	敲石	C1⑥	10.1	6.4	2.2	204.9	砂岩	
334	敲石	C1⑥	9.0	9.5	4.8	601.5	砂岩	
335	敲石	C2	9.2	3.7	3.9	189.4	砂岩	
336	敲石	B2③	6.1	3.6	3.7	113.0	砂石	
337	凹石	C0⑮	19.8	7.3	4.7	1146.4	砂岩	
338	凹石	C0④	15.7	7.1	6.4	1059.8	砂岩	
339	凹石	C3⑮	7.6	8.2	3.5	333.7	砂岩	
340	凹石	C1⑨	9.1	6.3	4.1	385.3	砂岩	
341	凹石	B3E	11.2	8.0	4.3	640.3	砂岩	
342	凹石	C0⑯	9.6	9.2	5.9	721.1	砂岩	
343	石錘	C2	6.5	5.9	1.7	85.4	砂岩	

第Ⅳ章　まとめ

本宮遺跡は、弥生時代から近世・近代にかけての遺跡である。市木川の氾濫原に位置し、大量の遺物が出土した。本遺跡の遺構・遺物は、この地域の人々の生活や果たしてきた役割を知る上で大変貴重である。以下いくつかの項目について検討を加え、本宮遺跡のまとめとしたい。

第１節　遺構

１　掘立柱建物跡

本遺跡の遺構検出面に４棟の掘立柱建物跡が検出された。掘立柱建物跡の構築時期については不確定要素が大きいが、規模や柱穴の埋土等が似ていること、いずれも南北軸とする主軸方向が２～７°の振れの中に収まることから同時期あるいは近い時期の構築であると考えられる。旧市木川沿いの微高地におけるこの４棟の位置関係は、穀物倉庫など重量のかかる建物に用いるとされる総柱建物跡が旧市木川のほとりに建ち、その背後に管理棟的な役割をもつと考えられる側柱建物跡がひかえる。また、柱穴が幾重にも重なって検出されたことは、何度も立て替えられた可能性を示唆する。これらのことは推測の範囲を超えないが、普段は穏やかな水面を見せる河川における盛んな物流と、現在まで続く氾濫との闘いなど、この地域に暮らした人々の逞しい生活を想像させる。また、掘立柱建物跡が検出されたのは微高地の縁辺部であることやＳＢ３・４が調査区外に延びていることなどから、集落の規模はさらに拡大して展開されていた可能性がある。

２　杭列遺構

本調査中央部付近で検出した４列の杭列遺構は、ＳＥ１・２及び旧河川跡ないしはより大きな溝状遺構に付設されたものと考えられるが、遺構の構築時期の特定は困難であった。そこで生木資料をもとに加速器質量分析法（ＡＭＳ法）による放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。その結果、304の木杭では100±30年BP（１σの暦年代でAD1690～1730, 1810～1920年）、307の木杭では240±30年BP（同AD1650～1660年）の年代値が得られた。なお、304では放射性炭素年代測定値よりも暦年代の年代幅がかなり大きくなっているが、これは該当時期の暦年代較正曲線が不安定なためである。また、樹種は304がスギ（スギ科）、307がシキミ（モクレン科）と同定された。いずれも遺跡周辺でよく見られる樹種である。

杭列遺構のうち、１～３号杭列遺構に使用された杭は同じ樹種のスギ材を用い、先端の加工の状況も同じであることから同時期か非常に近い時期に構築され、関連した遺構である可能性が強い。また、１～３号杭列遺構は旧河道の流れを堰き止めず、流れの弱い岸付近に打ち込まれている。そして、流路に対して直交した形をとる。検出された杭列遺構のうち最も上流側にある１号杭列遺構は、旧河道の流路に対して直交の位置から岸に傾く形で打ち込まれており、流れに対して内湾した形の二重構造をもつ。

これらの遺構がどのような役割を果たしていたかは残念ながら解明できなかったが、今後の類例を待ち、新たな展開を迎えることを期待したい。

第2節　遺物

(1) 土師器

○　成川式土器

成川式土器は南部九州の弥生時代後期から古墳時代にかけての土器様式の総称である。成川式は非常に在地色が強く、古墳時代にいたっても弥生土器の伝統を色濃く残す土器様式である。成川式土器の編年については、中村直子により示された「中津野式→東原式→辻堂原式→笹貫式」という編年案（中村1987）が最も受け入れられており、編年に関する研究はほぼ落ち着いた状態にある。本遺跡で出土した甕Ⅰ類は東原式、甕Ⅱ類は辻堂原式、甕Ⅲ類は笹貫式に相当すると考える。成川式土器のうち特に笹貫式については、5～6世紀とするものから7～8世紀とするものまで様々な説があるが、多々良編年（多々良1981）では6世紀に位置づけており、中村は須恵器の供伴例がほとんどないことから6世紀後半（中村1987）を下限としている。

本遺跡から出土した膨大な土師器のうち、辻堂原式や笹貫式に相当する土器が非常に多く出土したことから、本遺跡付近にはこの時期に大きな集落が控えていたことが考えられる。また、隣県の姶良町保養院遺跡や喜入町西船子遺跡から本遺跡出土の土器に非常によく似たものが出土していることは、当地が他地域、特に鹿児島県域との豊かな交流を行っていたことを現在に伝えている。

○　ミニチュア土器

古墳時代中・後期の祭祀遺跡ではミニチュア土器が集中して出土することがある。本遺跡では、手捏ね土器32点を含むミニチュア土器が43点出土した。奈良時代、本遺跡付近に市木神社が鎮座していたという言い伝えがあり、現在でも「本宮」という字名が残る。これらのことから、それ以前でも信仰に関わるような土地であった可能性は十分あり、水辺の祭祀が行われていたことを示唆するものかもしれない。

(2) 須恵器

本遺跡では、焼成不完全であったり著しく歪んでいたりする須恵器が数多く出土している。焼成不完全なものは12点、著しく歪んでいるものは2点図化した。一方、須恵器片が付着した土器も7点（206、222、223、258、274、287、288）出土している。特に287は甕の底部片と思われるものに、坏蓋の返りが2個体ほぼ平行に付着しているものである。これは底部片の割れ断面に自然釉がかからないことから、焼き台として焼成前の甕底部に接地していた坏蓋片が自然釉によりそのまま付着したものではないかと思われる。坏蓋の返りが破損しているのは、流通させる過程で、はつられたことに起因するものかもしれない。一方、破損した底部片上に坏蓋をのせ、坏蓋の返り部分が対象物に接面する焼き台であることも考えられたが、その場合、底部片の安定感がそれほどないことから前者の可能性の方が高いと推測される。288は長頸壺の底部付近と思われるが坏蓋もしくは坏身の口縁部が貼り付いている。しかも付着物の周辺は重量が加わったことにより窪んでいることから焼き入れの際、焼き台の坏蓋が付着し、後にはつられたと考えられる。また、206は径が8㎝程度の円形須恵器片が付着しており、その周辺は重量により窪んでいる。これは明らかに重ね焼きをした結果だと推察される。これらのことは、当時貴重品であった須恵器製品が完全品ではなくても流通していたことを示唆している。

【参考文献】

多々良友博	1981	『成川式土器の検討』鹿児島考古　第15号
河口貞徳	1981	『新南九州弥生式土器集成』鹿児島考古　第15号
日高次吉	1983	『宮崎県の歴史』山川出版社
鹿児島県教育委員会	1984	『外川江遺跡・横岡古墳』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書第(30)
喜入町教育委員会	1984	『西船子遺跡』鹿児島県揖宿郡喜入町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
中村直子	1987	『成川式土器再考』鹿大考古　第6号
北九州市教育文化事業団	1991	『貫川遺跡4』北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書第104集
鹿児島県教育委員会	1994	『保養院遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書11
中世土器研究会	1997	『概説　中世の土器・陶磁器』
日本貿易陶磁研究会	1998	『貿易陶磁研究』№1～№5
太宰府市教育委員会	2000	『大宰府条坊跡ⅩⅤ　陶磁器分類編』太宰府市の文化財第49集
乗岡実	2000	『備前焼擂鉢の編年について』第3回中近世備前焼研究会資料
九州近世陶磁学会	2000	『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会10周年記念
島根県教育委員会	2001	『西川津遺跡Ⅶ』朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12冊

調査前の本宮遺跡と市木５号墳

市木５号墳上の「宮跡」碑

遺物包含層

遺物出土状況（C－１グリット付近）

遺物出土状況（C－１グリット付近）

遺物出土状況（C－３グリット）

図版２

ＳＣ１遺物出土状況

ＳＣ１完掘状況

ＳＢ１

ＳＢ２

ＳＢ３

作業風景